

**日本の医療サービスの海外展開に関する調査事業  
「ロシア(モスクワ市等)における  
日本式医療サービスの普及・啓発プロジェクト」  
報告書**

**平成24年2月**

**公益財団法人国際口腔医療財団**

**日本の医療サービスの海外展開に関する調査事業**  
**「ロシア(モスクワ市等)における日本式医療サービスの普及・啓発プロジェクト」**  
**報告書**

— 目 次 —

<b>第1章 事業概要</b> .....	1
<b>1-1. 事業の趣旨</b> .....	1
1) 背景.....	1
2) 目的.....	1
<b>1-2. 事業計画</b> .....	1
1) 事業概要.....	1
2) 実施体制.....	2
<b>1-3. 今年度事業における実施内容</b> .....	2
1) 実施項目.....	2
2) 実施体制.....	3
<b>第2章 海外展開対象国・地域の概要</b> .....	4
<b>2-1. 当該国・地域に関する基本情報</b> .....	4
1) 社会環境.....	4
2) 経済環境.....	8
3) 日本との関係.....	10
<b>2-2. 医療環境</b> .....	11
1) 疾病構造.....	11
2) 医療保険制度.....	16
3) 医療機関.....	17
4) 医療従事者.....	20
5) 医療機器.....	22
<b>第3章 当該対象国・地域への展開に係る法制度及び規制</b> .....	23
<b>3-1. 日本人医師による医療行為の可能性</b> .....	23
<b>3-2. 日本からの資本参加</b> .....	23
<b>3-3. モスクワの医療サービスの調査</b> .....	24
1) モスクワの医療機関等の現状.....	24
2) 医療機関等に対する市民の評価.....	26
<b>3-4. ジャパンメディカルセンターの開設</b> .....	27
1) 開設の経緯.....	27
2) セミナー・講演の開催.....	27
3) ロシア人医師に対する技術指導（内視鏡）.....	28
4) ロシア人医師の研修受け入れ.....	30
5) 日本の医療についての評価（期待）.....	30
<b>3-5. 画像遠隔診断システムの運営</b> .....	32
1) 設置の経緯.....	32

2) システムの概要.....	32
3) MDTS の特徴 .....	33
4) MDTS のシステム仕様と提供スキーム.....	35
5) MDTS の運用 .....	35
6) MDTS のコスト .....	35
7) 画像遠隔診断の価格.....	36
8) 課題と評価.....	36
9) 画像転送診断の普及状況.....	36
<b>3-6. 健康診断の普及状況や企業の認識.....</b>	<b>37</b>
1) 行政の対応.....	37
2) 市民の健康診断の受診状況.....	38
<b>第4章 ロシア(モスクワ市等)における事業展開に向けた検討.....</b>	<b>41</b>
<b>4-1. 本事業展開可能性に関する検証.....</b>	<b>41</b>
1) 病院(診療所)の開設.....	41
2) 日本の高度医療のセミナーの実施及び有料セミナーの実施 .....	41
3) 画像遠隔診断の実施.....	42
4) 健康診断の普及.....	42
<b>4-2. 事業展開のための課題.....</b>	<b>42</b>
1) 法の改正等.....	42
2) ロシア人医師の確保と研修体制.....	42
3) 任意保険会社等との連携.....	43
<b>4-3. まとめ.....</b>	<b>43</b>
1) 今後の展開について.....	43
2) 展開に当たっての基本姿勢.....	44
<b>参考資料.....</b>	<b>46</b>
1. 在モスクワ市及び近郊在住の市民を対象とした医療に関する意識調査結果 .....	47
2. 企業経営者又は福利厚生部門担当者を対象とした医療に関する意識調査結果 .....	52
3. 在モスクワ市及び近郊在住の医師を対象とした医療に関する意識調査結果 .....	57
4. 在モスクワ及び近郊在住の市民を対象とした医療に関する意識調査結果 .....	61
5. 日本人医師によるセミナーに参加したロシア人内視鏡担当医師のアンケート調査結果 ...	64

## 第1章 事業概要

### 1-1. 事業の趣旨

#### 1)背景

ロシア連邦国家統計局の発表による現在のロシアの人口は、1億4,291万人、1990年から500万人以上が減少している。

ロシアでは、以前より死亡率が出生率を上回っており、また、平均寿命が先進国の中でも短く、特に男性の平均寿命が短いのが特徴となっている。主要死因としては、循環器系疾患（心疾患、脳血管疾患）が62%を占め、飲酒や喫煙など生活習慣によるものが原因とされている。国際連合の予測では、今後も緩やかながら人口が減少していくとされている。

また、一般的なロシア人が受診する公的医療機関は原則無料であるが、医療技術やサービス水準が低く、更に医師が患者から金員を要求するなど、医療イコール公共サービスという概念が十分普及、機能していない状態である。このため、近年医療費が有料の民間医療機関の開設が多くなっている。

一方、ロシア人富裕層は、ロシア語が通用することや専門仲介業者がいる等の理由で、ドイツやイスラエルに治療を受けに行くことが多くなっているが、いずれも商業重視、法外な料金を取るという評判が出ていて、信頼が急落している。また、タイやシンガポール、韓国等アジアへの健診や治療目的での渡航はほとんどない。

そうした中、ロシア政府は、国民の健康問題、人口減少問題を喫緊の課題として認識し、経済危機下にあっても医療予算を大幅に減額することもなく、医療制度改革や医療サービスの充実に重点を置いて施策を進めている。

#### 2)目的

このような状況の中、日本の卓越した診断、治療技術や、定期健康診断システムなどを広くロシアに普及、定着させることは、ロシアの健康問題を解決に結びつける一助になるとともに、医師の交流を通じて両国の医療技術の発展にもつながるものである。

このため、ロシアの医療状況や法制度を把握するとともに、モスクワ等において日本の医療技術の普及啓発や技術指導等を行い、これらを通じて、ロシアへの医療進出の課題の把握やインバウンドの可能性についての検討を行うことを目的とする。

### 1-2. 事業計画

#### 1)事業概要

ロシア国内において、ロシアの医師免許を有していない日本人医師による合法的な医療行為の可否、現地病院等への日本からの資本参加の可能性の確認をするため、関連法制度、関係官庁への手続き等の調査を行うとともに、アンケート調査等によるモスクワの医療情報の確保を図り、今後ロシアに進出を希望する医療関係者の参考に資する。

また、ロシアの医師免許の問題が解決する間において、モスクワに「ジャパンメディカルセンター」（以下、「JMC」という。）を開設、日本人医師を派遣し、セミナーの開催や技術指導などを通じ、日本の医療の啓発を行うとともに、現地医療機関の視察を通じた意見交換、アド

バイス等を行い、ロシア人医師との交流を深める。

さらに、ロシアの平均寿命が短いことに鑑み、日本では一般的になっている定期健康診断システムを普及させるため、健康診断に対する市民等の意見の把握を行うとともに、がん等の早期発見に役立つ内視鏡の画像遠隔診断システムの構築を行う。

## 2)実施体制

本事業の推進に当たっては、公益財団法人国際口腔医療財団による事業全体の統括の下、複数の事業体及び個人の協力により各種調査及び実証を行った。

協力事業体及び個人は、以下の通り。

[事業体]

- ① 公益財団法人国際口腔医療財団
- ② 財団法人脳神経疾患研究所
- ③ 東京内視鏡クリニック
- ④ 株式会社ティックス
- ⑤ 豊田通商株式会社
- ⑥ 株式会社 Hoster-JP

[個人] (五十音順)

- ① 明楽重夫氏 (日本医科大学教授)
- ② 石田文生氏 (昭和大学横浜市北部病院医師)
- ③ 伊藤透氏 (金沢医科大学教授)
- ④ 河野孝一郎氏 (医療法人倚山会田岡病院医師)
- ⑤ 工藤進英氏 (昭和大学医学部教授)
- ⑥ 工藤豊樹氏 (昭和大学横浜市北部病院医師)
- ⑦ 古林秀則氏 (大分大学副学長)
- ⑧ 松平信吾氏 (昭和大学横浜市北部病院医師)
- ⑨ 和田祥城氏 (昭和大学横浜市北部病院医師)
- ⑩ 角谷泉氏

## 1-3. 今年度事業における実施内容

### 1)実施項目

- ① ロシアの医師免許を有しない日本人医師による医療行為の実施可能性についての法的調査を行う。
- ② 日本からの資本参加による病院設立の可能性についての調査を行う。
- ③ ジャパンメディカルセンターを開設し、日本人医師によるセミナーやロシア人医師へ内視鏡の技術指導を行う。
- ④ 日本の専門医による画像遠隔診断を行うためのシステムの可能性を研究する。
- ⑤ 健康診断の普及状況やこれに対する企業等の認識の調査を行う。

## 2)実施体制

- ① 医師免許の法的調査については、財団法人脳神経疾患研究所が担当し、ロシアの弁護士事務所に委託して行う。
- ② 日本からの病院への資本参加については、財団法人脳神経疾患研究所が担当する。
- ③ ジャパンメディカルセンターの開設、セミナーの開催については、豊田通商株式会社、角谷泉氏が担当し、また、日本人医師の派遣については、公益財団法人国際口腔医療財団、財団法人脳神経疾患研究所、東京内視鏡クリニックが担当する。
- ④ 画像診断システムの構築については、Hoster-JP が担当する。
- ⑤ 健康診断については、財団法人脳神経疾患研究所が担当する。

## 第2章 海外展開対象国・地域の概要

### 2-1. 当該国・地域に関する基本情報

#### 1) 社会環境

ロシアの国土面積は、17,075,400平方キロメートルで世界最大となっており、アメリカの2倍、日本の45倍もある広大な土地である。

人口は、1億4,291万人(※)で、1990年のロシア共和国の成立以来、減少を続けており、20年間で500万人以上が減少している。国際連合の中位予測では、2030年に1億3,643万人、2050年に1億2,619万人になるとされている。

平均寿命は、67.7歳(男性61.6歳、女性74.0歳)で、日本や西ヨーロッパに比べて短く、特に男女差が12.4歳と大きいのが特徴であり、これは医療水準の低さや喫煙、飲酒など生活習慣によるものが大きいとされている。また、出生率は、人口1,000人当たり12.4人、死亡率が14.2人となっており、ロシア共和国になってから死亡率が出生率を上回っている状態が続いている。高齢化率は13%となっており、国全体としてはそれほど問題視する状況にはない。

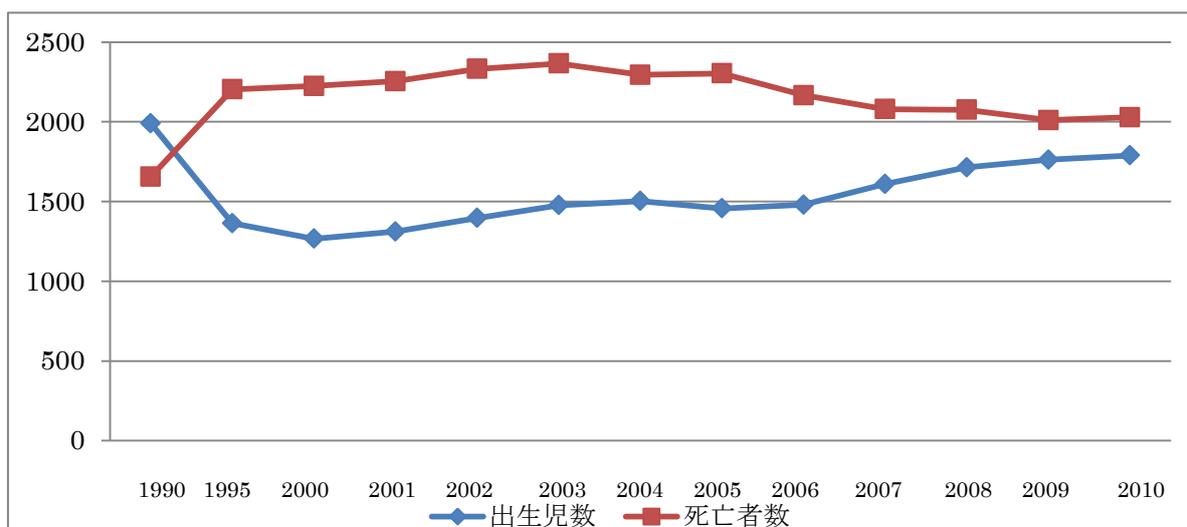
このような状況の中、モスクワやサンクト・ペテルブルグなど都市への人口集中が続いており、生活環境の厳しい東部から西部への人口移動が問題となっている。(※=2010年国勢調査の中間集計結果)

図1 ロシア全図



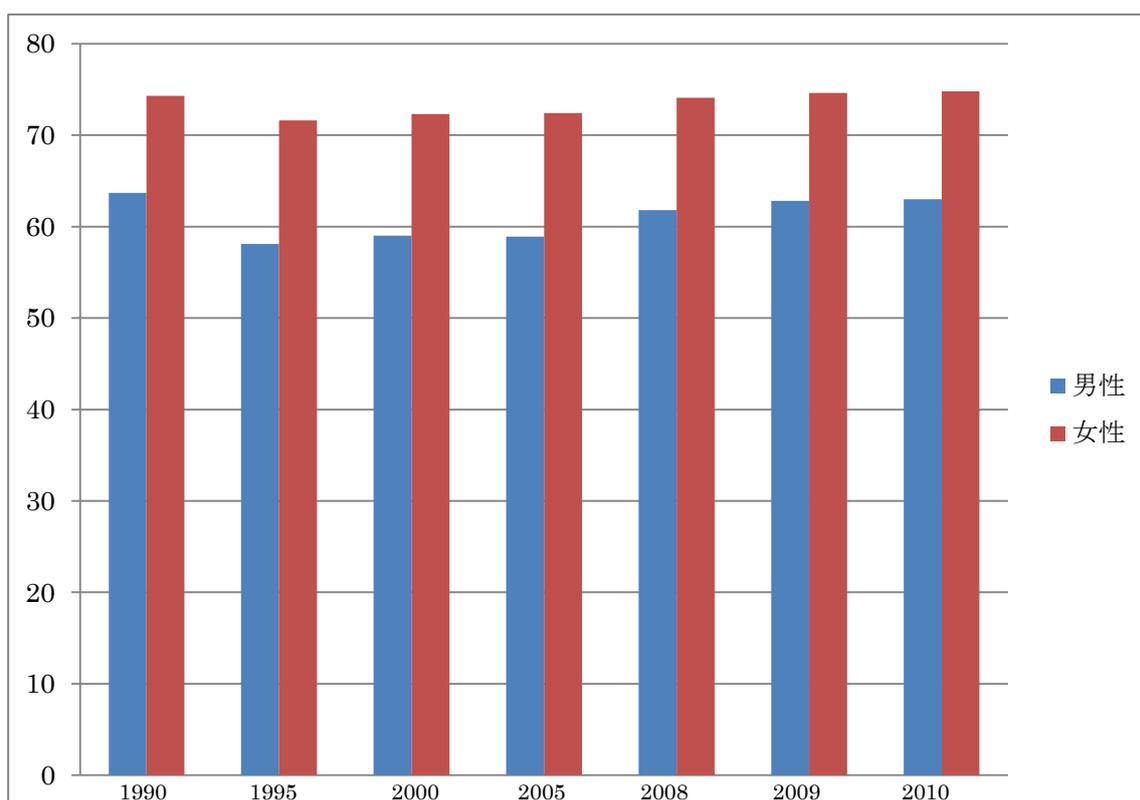
出所) 総務省統計局ホームページより抜粋作成

図2 ロシアの出生数と死亡数の推移 (単位: 1,000人)



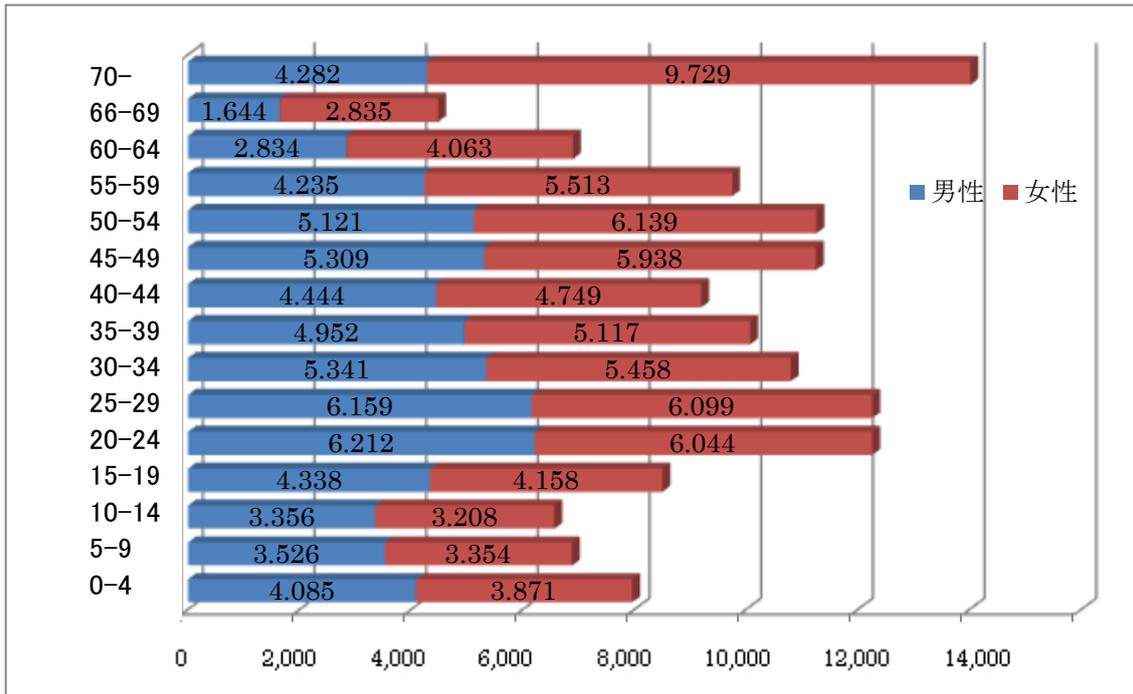
出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

図3 ロシア国民の平均寿命



出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

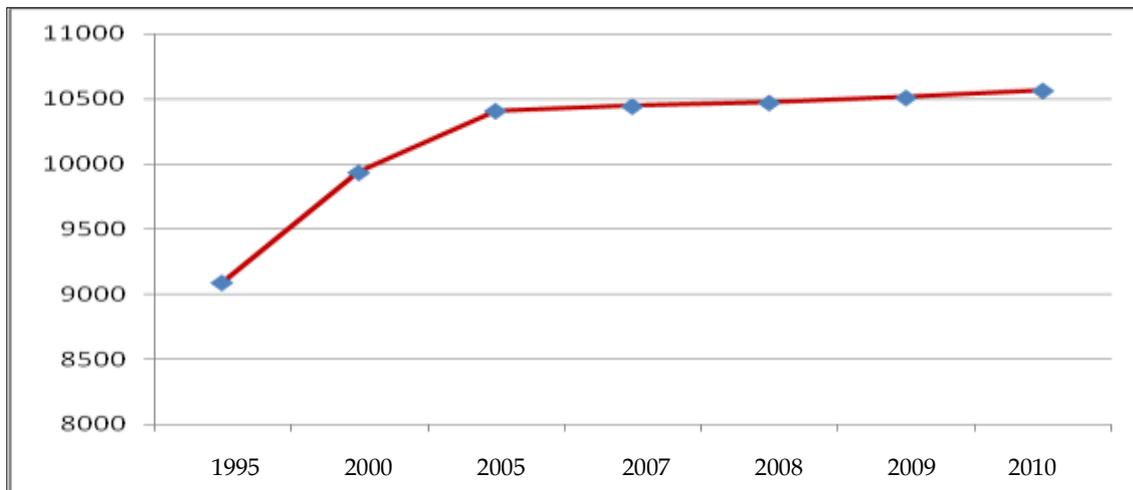
図4 ロシア年齢層・性別人口（2010年）



出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

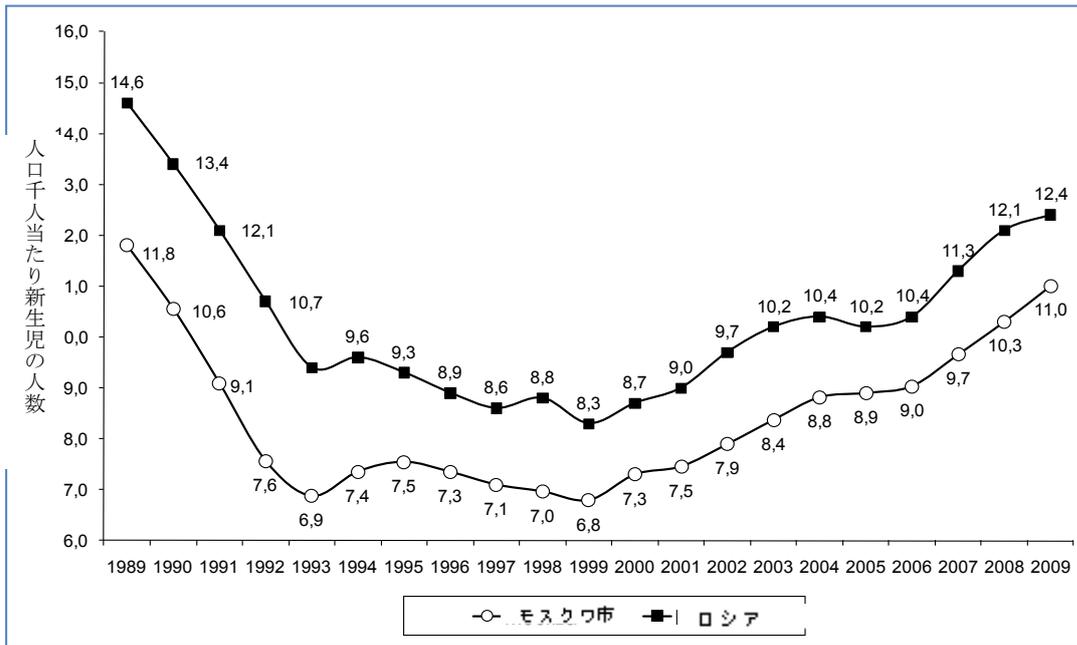
ロシアの首都であるモスクワ市は、人口が1,051万人(※)となっており、ロシア全体の8%の人が住んでおり、8年前の2002年の国勢調査の結果から113%と大きく増えている。また、モスクワ市の平均寿命は、男性69.4歳、女性77.7歳(2009年)と高く、出生率は11.0人、死亡率は11.4人と低くなっており、医療水準の高さや健康に対する意識の高さがうかがわれる。(※=2010年国勢調査の中間集計結果)

図5 モスクワ市の人口推移（単位：1,000人）



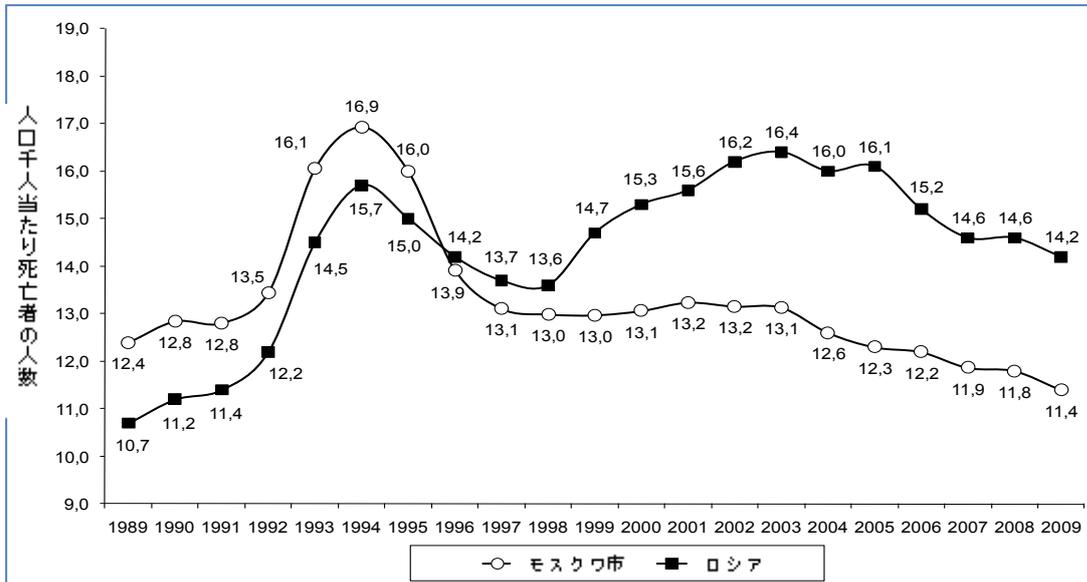
出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

図6 モスクワ市の出生数の推移（単位：人）



出所) モスクワ政府モスクワ市ロシア連邦消費者権利保護・福祉分野監督庁健康保健課  
「モスクワ住民の健康状況について、2009年」

図7 モスクワ市の死亡数の推移（単位：人）



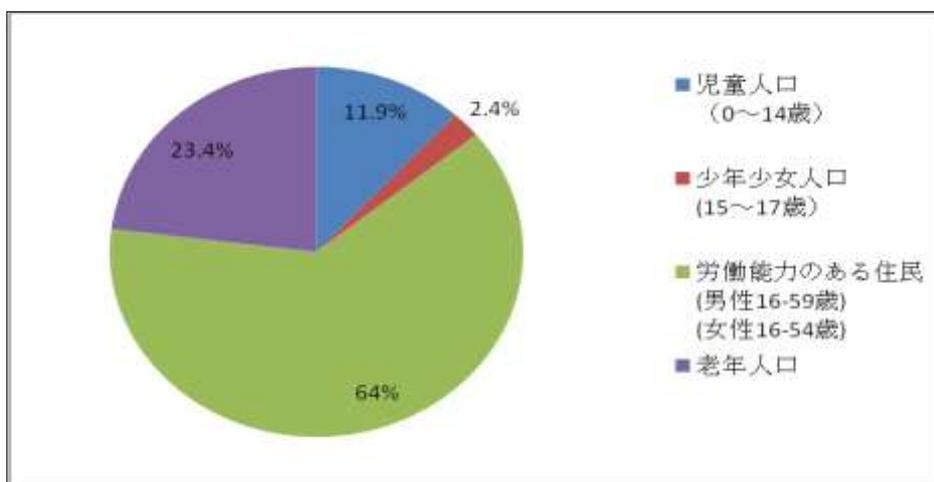
出所) モスクワ政府モスクワ市ロシア連邦消費者権利保護・福祉分野監督庁健康保健課  
「モスクワ住民の健康状況について、2009年」

表1 モスクワ市の出生児の数と死亡者の数（単位：人）

	2010年	2011年(1~9月)
出生児数	91,604	92,114
死亡者数	98,062	83,397

出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

図8 モスクワ市民年齢層（2009年）



出所) モスクワ政府モスクワ市ロシア連邦消費者権利保護・福祉分野監督庁健康保健課  
「モスクワ住民の健康状況について、2009年」の資料を基に作成

## 2) 経済環境

ロシアの主要産業は、石油、天然ガス、石炭等の鉱業や鉄鋼業、機械工業、化学工業、繊維工業などであり、GDPは、1兆5,175億ドルで、アメリカの約1割となっている(2010年)。

経済成長率は、1999年より10年間プラスであったが、金融危機の影響で2009年はマイナス7.9%と大きく落ち込んだ。しかしながら、2010年は、原油価格の高騰等により4.0%のプラスと回復をしている。

貿易では、輸出が、石油、石油製品、天然ガス、鉄鋼、機械・設備を中心に4,001億ドル、輸入が機械・設備、自動車、食料品、医薬品などで2,487億ドル、主な輸出相手国は、オランダ、イタリア、ドイツ、ウクライナ、輸入相手国は、中国、ドイツ、ウクライナ、アメリカ等(2010年)となっている。

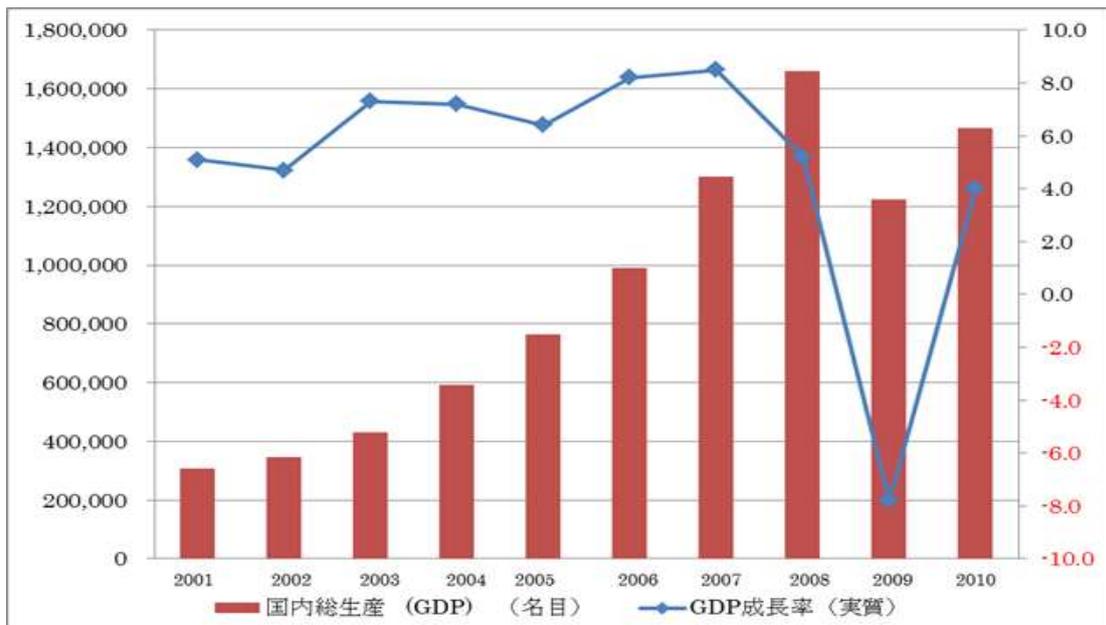
輸出では、石油や天然ガス等の鉱物資源が6割以上で、資源により経済が支えられているため、ロシア政府では国内産業の育成を図るため、外資の取り込みに力を入れている。

表2 ロシアの主要経済指標 前年比実質増減率(単位：%)

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011 (1-3月)
国内総生産 (GDP)	7.3	7.2	6.4	7.7	8.1	5.6	-7.9	4.0	4.1
鉱工業生産	8.9	8.3	4.0	6.3	6.3	2.1	10.8	8.2	5.1
農業生産	1.3	3.0	2.3	3.6	3.4	10.8	1.2	11.9	0.7
固定資本投資	12.5	13.7	10.9	16.7	21.1	9.1	17.0	6.0	1.5
商品小売販売高	8.8	13.3	12.8	13.9	16.1	13.0	5.5	6.3	4.7
実質可処分所得	15.0	10.4	12.4	13.3	12.1	2.7	1.9	4.2	2.9
輸出 (国際収支ベース)	26.7	34.8	33.1	24.5	16.8	33.1	35.5	32.0	23.8
輸入 (国際収支ベース)	24.8	28.0	28.8	31.0	36.0	30.6	34.3	29.7	41.9
消費者物価指数 (%)	12.0	11.7	10.9	9.0	11.9	13.3	8.8	8.8	3.8
失業率 (年末、%)	8.6	8.3	7.6	6.9	6.1	7.7	8.2	7.5	7.5

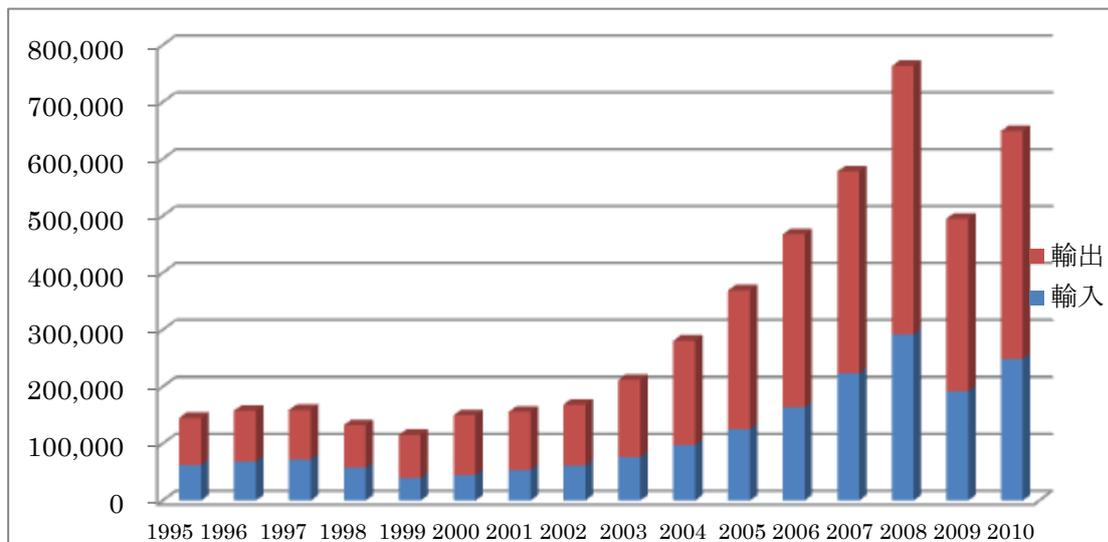
出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

図9 ロシアの国内総生産（単位：100万ドル）



出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

図10 ロシアの貿易高（国際収支ベース）（単位：100万ドル）



出所) ロシア中央銀行資料を基に作成

モスクワ市のGDPは国内の22%（2009年）、製造業生産額は10%（2010年）を占めており、平均月収も4.2万ルーブルとロシア全体の2.5倍（2009年）となっている。また、モスクワでは、自動車や工場等の増加により大気汚染や河川の汚濁などの環境問題も発生している（1ルーブル≒約3円）。

図11 ロシアの中のモスクワの指標

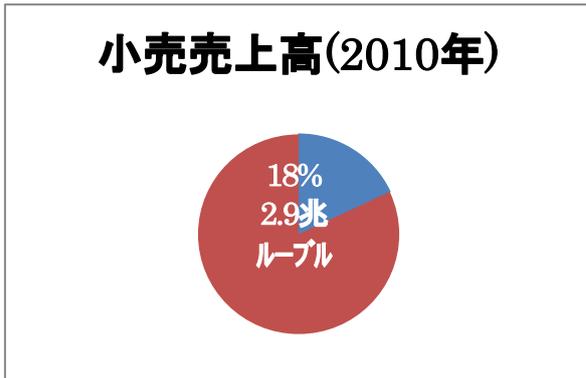
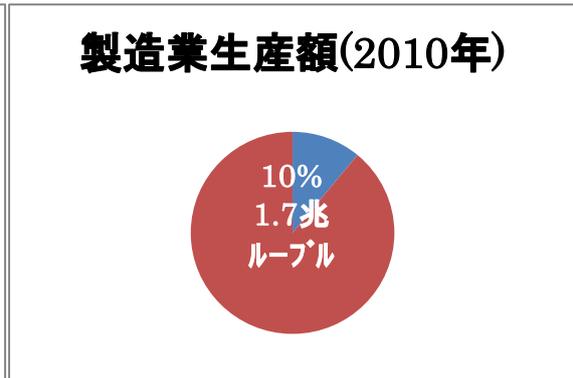


図12 ロシアの中のモスクワの指標



出所) 日本貿易振興機構 (JETRO) モスクワ事務所ロシアのビジネス環境 (2012年1月)

図13 ロシアの中のモスクワの指標

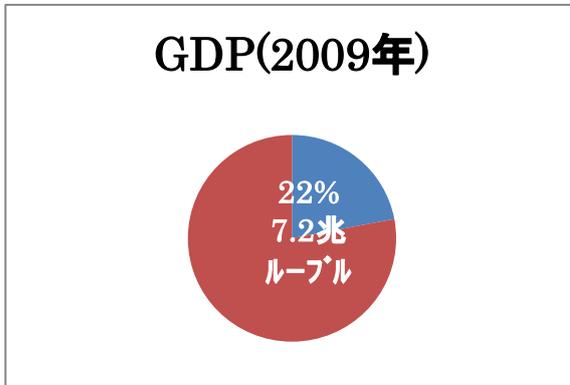
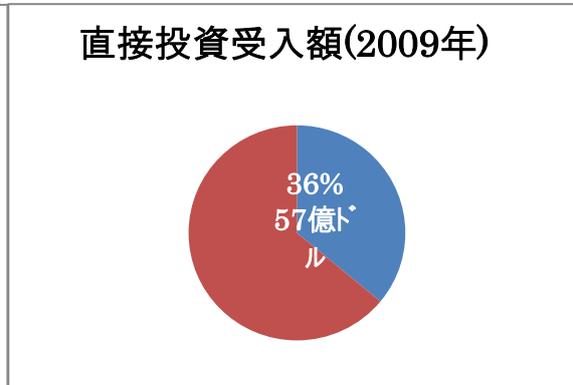
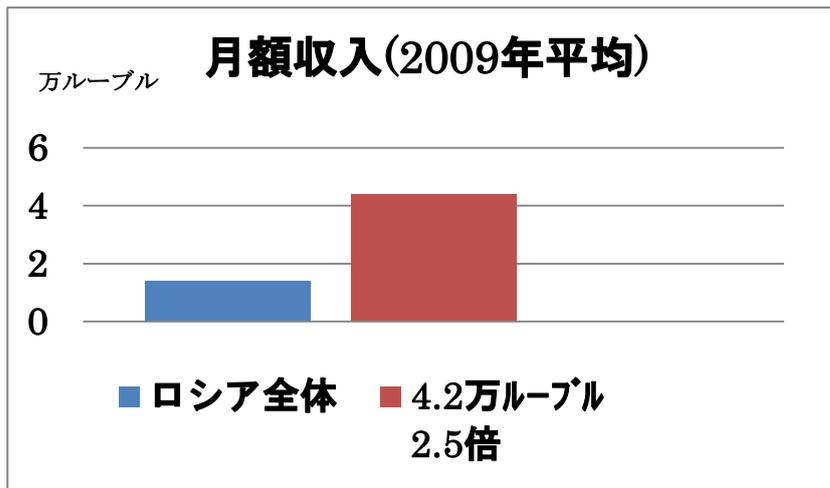


図14 ロシアの中のモスクワの指標



出所) 日本貿易振興機構 (JETRO) モスクワ事務所ロシアのビジネス環境 (2012年1月)

図15 ロシアの中のモスクワの指標



出所) 日本貿易振興機構 (JETRO) モスクワ事務所ロシアのビジネス環境 (2012年1月)

### 3)日本との関係

日本とロシアの経済関係は、2005年ころから盛んになり、2008年には、日本からの輸出は自動車を中心に1兆7,140億円、輸入は原油を中心に1兆3,890億円となって

過去最高を記録した。

また、日系企業も自動車関連産業を中心にモスクワ周辺に多く立地をしている。モスクワ市周辺に進出している企業・団体が構成しているジャパンクラブに加盟する企業等は、193社ある。

**表3 日本とロシアの貿易動向**

- 2010年の日本の対ロシア輸出入はともに前年比増
- 輸出に占める自動車の比率が約6割に
- 輸入の主要商品はエネルギー関係に変化

(単位:10億円、%)

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	前年比%
輸出総額(日→ロ)	821.4	1265.4	1714.3	306.5	700.8	128.6
一般機械	80.8	152.8	189.2	59.3	94.1	58.7
自動車	611.2	949.4	1301.9	136.6	432.3	216.5
輸入総額(日←ロ)	774.4	1241.5	1389.3	825.5	1409.2	70.7
魚介類	114.1	119.7	132.3	95.9	102.7	7.1
原油・粗油	81.9	440	526.6	334.2	633.5	89.6
液化天然ガス	-	-	-	89	231	159.6
非鉄金属	274.1	323.8	284.2	89.5	148	65.5

(注)2010年の輸出は確報、輸入は速報  
(出所)財務省

出所) 日本貿易振興機構(JETRO) モスクワ事務所ロシアのビジネス環境(2012年1月)

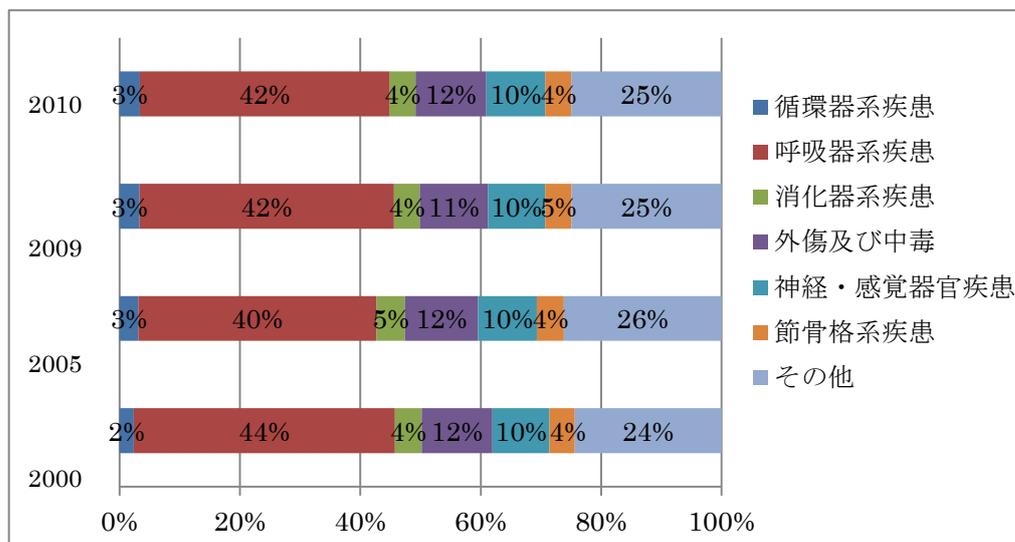
## 2-2. 医療環境

### 1) 疾病構造

① ロシアの2010年の主な傷病としては、呼吸器系疾患が4,628万人と42%を占めている。次に、外傷及び中毒が1,309万人で12%、神経・感覚器官(眼、耳)が1,092万人で10%などとなっており、呼吸器系疾患が多いのが特徴である。

また、主要な死因としては、循環器系疾患(心疾患、脳血管疾患)62%、悪性新生物(がん)16%、外的要因(事故、急性アルコール中毒など)11%が上位を占めている。

**図16 ロシア国民の疾病構造(初診患者)**



出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

**表4 ロシアの主要な傷病の初診患者数の推移（単位：1,000人）**

	2000年	2005年	2010年
<b>総計</b>	<b>106,328</b>	<b>105,886</b>	<b>111,428</b>
感染症および寄生虫症	6,448	5,312	4,690
新生物	1,226	1,357	1,540
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	551	647	705
内分泌、栄養および代謝疾患	1,234	1,361	1,461
神経系の疾患	2,227	2,178	2,345
眼および付属器の疾患	4,638	4,778	4,715
耳および乳様突起の疾患	3,191	3,425	3,867
循環器系疾患	2,483	3,278	3,734
呼吸器系疾患	46,170	41,915	46,281
消化器系疾患	4,698	5,034	4,778
皮膚および皮下組織の疾患	6,407	7,073	6,886
節骨格系および結合組織の疾患	4,452	4,746	4,789
泌尿器系疾患	5,470	6,560	6,842
周産期に発生した病態	2,085	2,471	2,889
先天奇形、変形および染色体異常	214	243	295
損傷、中毒およびその他の外因の影響	12,544	12,808	13,096

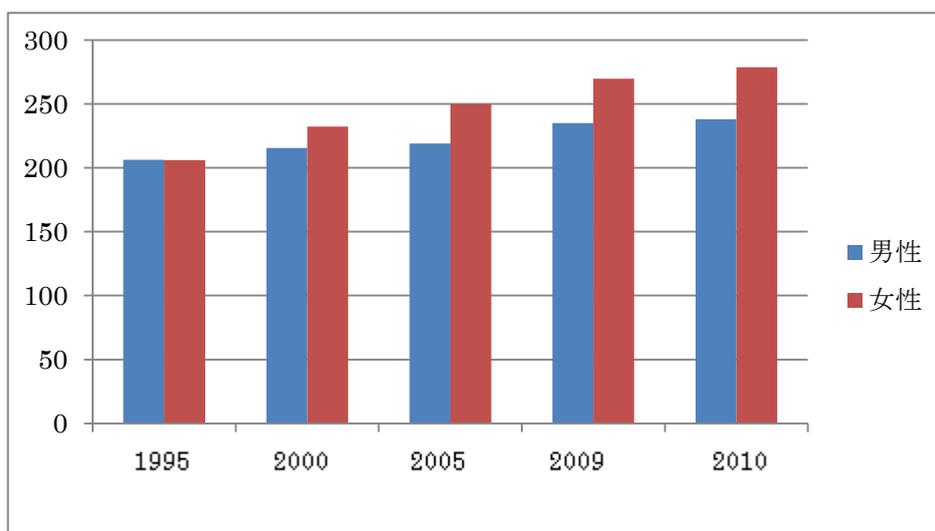
出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

**表5 ロシアの悪性新生物（ガン）初診患者数（単位：1,000人）**

2000年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
427.5	442.9	448.3	455.5	458.1	469.8	479.5

出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

**図17 ロシアの悪性新生物（ガン）初診患者数（単位：1,000人）**



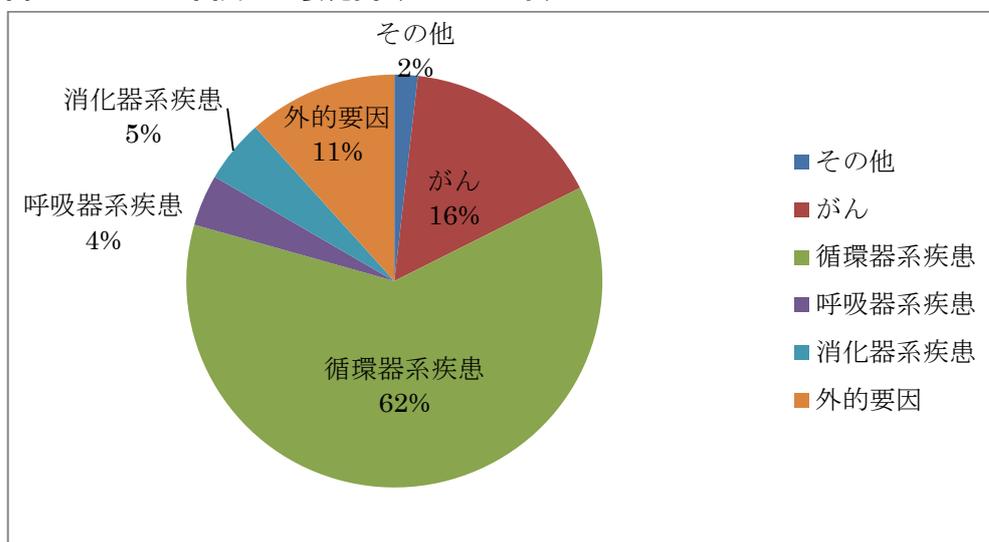
出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

表6 ロシアの悪性新生物（ガン）主要部位別初診患者数（単位：1,000人）

	1995年		2000年		2005年		2009年		2010年	
	男性	女性								
口唇、口腔、咽頭	12.9	3.5	12.3	3.2	11.2	3.2	11.7	3.5	11.7	3.6
食道	6.1	2.2	5.7	1.9	5.4	1.7	5.5	1.6	5.7	1.7
胃	30.3	22.2	27.4	20.7	24.7	18.7	22.9	17.4	22.5	17.3
直腸、直腸S状結腸移行部、 肛門	8.6	9.9	10.2	11.2	11.5	12.1	12.1	12.9	12.5	13.3
肝及び肝内胆管	4.5	3.5	4.1	3.2	3.6	2.9	3.7	2.9	3.7	2.8
すい臓	6.7	6.0	6.8	6.3	6.8	6.5	7.3	7.4	7.5	7.5
喉頭	7.3	0.3	6.9	0.4	6.1	0.4	6.2	0.4	6.2	0.5
気管、気管支、肺	55.5	10.1	52.9	10.1	47.9	9.7	46.7	10.4	46.4	10.6
乳腺		37.6		44.8		49.5		54.3		57.2
子宮頸部、子宮体部、胎 盤		24.9		27.5		30.2		34.1		34.6
前立腺	7.8		11.6		16.9		25.2		26.3	
膀胱	8.3	2.0	9.5	2.5	10.0	2.7	10.4	2.8	10.7	3.1
腎	6.0	4.5	7.6	6.0	8.8	6.9	10.1	8.2	10.3	8.4
リンパ組織、造血組織	9.3	8.9	10.0	9.8	10.7	11.3	11.9	12.5	11.9	12.6

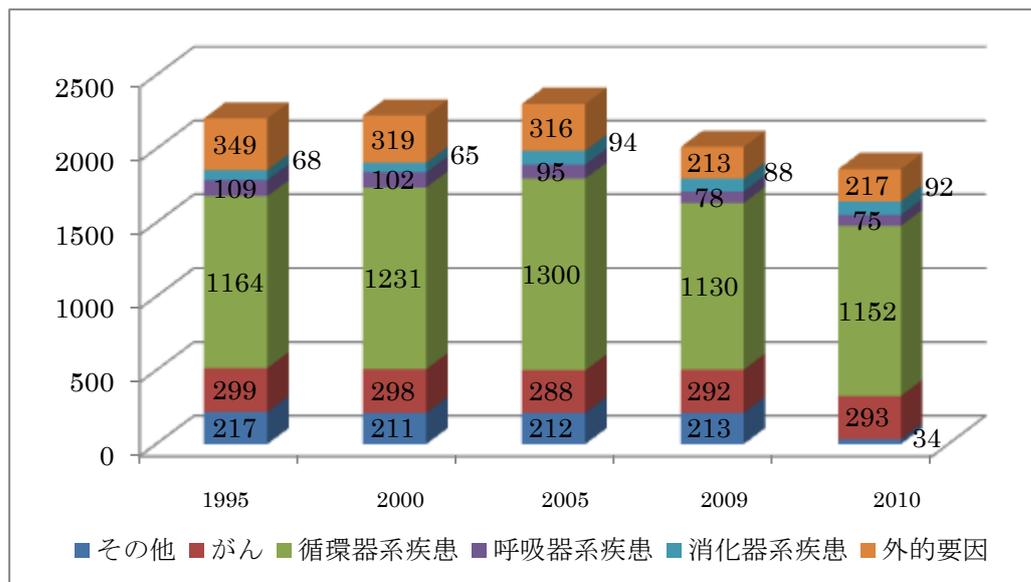
出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

図18 ロシア国民の主要死因（2010年）



出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

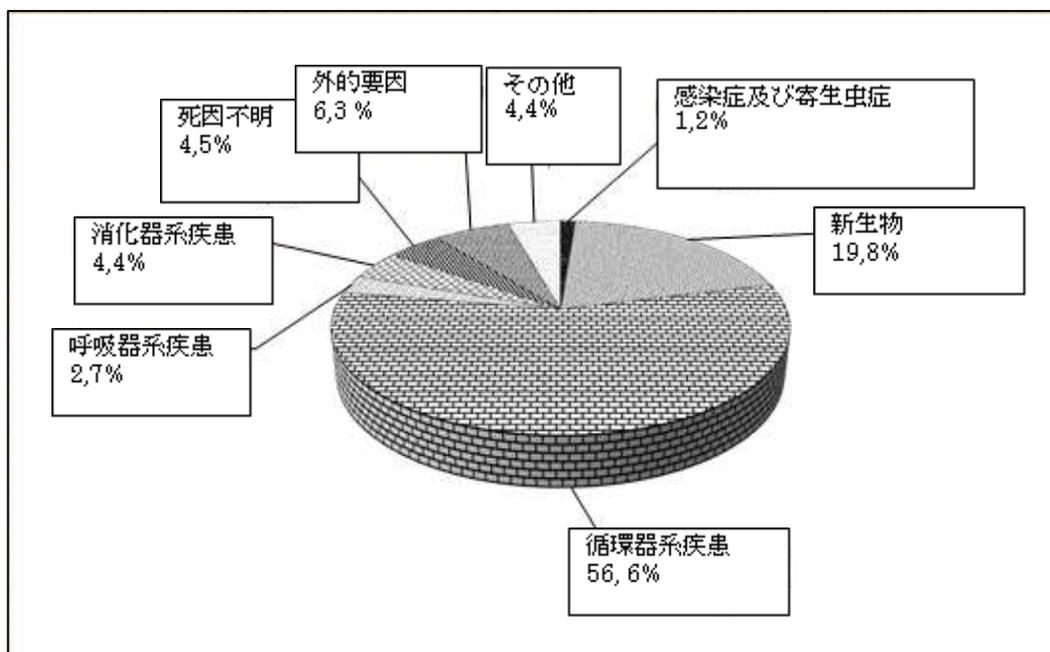
図19 ロシア国民の主要死因別死亡者数（単位：1,000人）



出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

- ② モスクワ市においても、死因の1位は、循環器系疾患56.6%、2位が悪性新生物19.8%、3位が外的要因6.3%となっており、悪性新生物の割合がロシア全体と比較して高くなっていることは、高齢化率の高さとの関連が考えられる。

図20 モスクワ市民の主要死因（2009年）



出所) モスクワ政府モスクワ市ロシア連邦消費者権利保護・福祉分野監督庁健康保健課「モスクワ住民の健康状況について、2009年」

図 21 モスクワ市民の主要死因別死亡者数 2010～2011年（1月～9月）



出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

表 7 モスクワ市民の主要な傷病の患者数（人口100,000人あたり）

	大人（18歳以上）		少年少女（15-17歳）	
	2008年	2009年	2008年	2009年
合計	136,727	138,324	221,815	244,422
感染症および寄生虫症	2,920	2,890	3,546	3,689
新生物	3,746	3,889	656	624
内分泌、栄養および代謝疾患	5,496	5,719	5,540	6,153
血液および造血器の疾患	157	138	287	329
精神疾患	4,015	4,088	6,198	6,545
神経系の疾患	1,920	1,890	8,026	8,986
眼および付属器の疾患	8,758	8,606	25,117	26,448
耳および乳様突起の疾患	2,494	2,652	2,872	3,212
循環器系疾患	32,057	32,541	5,684	6,238
呼吸器系疾患	24,793	25,394	80,817	95,008
消化器系疾患	10,590	10,603	15,570	16,063
尿路性器系疾患	12,007	11,516	7,163	6,815
周産期に発生した病態	1,950	2,197	175	146
皮膚および皮下組織の疾患	4,7050	4,237	9,615	11,659
筋骨格系および結合組織の疾患	13,045	13,286	29,191	30,586
先天奇形、変形および染色体異常	83	84	2,087	2,139
損傷、中毒およびその他の外因の影響	8,586	8,532	18,809	19,097

出所) モスクワ政府モスクワ市ロシア連邦消費者権利保護・福祉分野監督庁健康保健課  
「モスクワ住民の健康状況について、2009年」を基に作成

表 8 モスクワ市民の悪性新生物（ガン）診患者数（単位：人）

	2000年	2005年	2009年	2010年
患者数	140,853	161,576	196,079	208,250
人口100,000人当たり患者数	1,392.6	1,549.9	1,856.3	1,802.7

出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

## 2)医療保険制度

- ① ソ連時代には医療は国家の保証として無償であったが、ロシアへの体制転換後の1991年に制定された強制医療保険法に基づく強制医療保険制度である。これは、国民は無料で公的医療機関において診療が受けられるもので、その保険料は雇用主又は地方行政が負担するものである。

この保険は、保険料率が低く抑えられていたため、現実には財源不足となっており、老朽化した建物の改築や医療機器の入れ替えや新規導入、医師等の給料のベースアップ等の課題を抱えている。このため、ロシア政府では、2010年より雇用主負担の保険料率を2.2%から5.1%へ引き上げるなど改善を図っているところである。

- ② 民間の保険会社が保険商品の一つとして販売しているのが、任意医療保険である。これは、一定の掛金を支払うと保険会社が契約している民間医療機関で掛金に応じた診察を無償で受けることができるものである（掛金のランクにより指定される民間医療機関、対象となるサービスの種類が定められている）。掛金は、ある保険会社では、12,200ルーブルから34,600ルーブルまで段階的に設定している。複数の保険会社のヒアリングによると、2011年には、人口の7%の1,000万人が加入しており、加入者の95%が法人契約によるもので、外資系の会社はほとんど、ロシアの大手企業も3割程度加入している。ある保険会社では、毎年10%程度加入者が増加しているとしている。また、社員のほかにその家族も保険に入れている企業もあり、優秀な人材を確保するための手段の一つとなっている。個人で加入する人は少ないが、個人の場合は医者にかかるために加入する人が多いため、赤字となっている。なお、薬は入院を除き、個人負担で薬局において購入する。

さらに、死亡率で高い割合を占めるがんは、国のプロジェクトで対応することとされ、がんと診断された後は公的医療機関で治療するため、任意医療保険では対象とされていない。しかしながら、ロシアのがん治療技術は高くないため、富裕層は海外でがん治療を受けるのが一般的である。

図 2 2 ロシア民間保険会社の医療保険の一例

I. ロシア・任意医療保険プランの一例

サービス	プラチナム	プレミアム	オプチマル	スタンダード	ベーシック
保険料／年(1ルーブル=約3円)	34,600ルーブル～ (約104,000円)	27,600ルーブル～ (約83,000円)	24,500ルーブル～ (約74,000円)	18,300ルーブル～ (約55,000円)	12,200ルーブル～ (約37,000円)
クリニックでの診察・治療	○	○	○	○	○
歯医者での診察・治療	○	○	○	○	×
往診	○	○	○	○	○
入院	○	○	○	×	×
ロシア全土のクリニックでのサービス	○	○	○	○	○
ロシア全土の病院での入院サービス	○	○	○	×	×
薬の提供	○	○	×	×	×
専属医師	○	×	×	×	×
モスクワ市郊外30kmまでの往診	△	△	△	△	△
モスクワ市郊外50kmまでの往診	△	△	△	△	△

\* ○ - 適用、× - 適用外、△ - オプション

\* 加入対象は18歳～79歳

\* 保険会社によって指定されたクリニック/病院/歯医者でなければ保険は適用されない

II. 健康診断(年1回) / オプションとして上記プランに健康診断を追加できる

対象/プラン	デラックス	VIP	ビジネス	スタンダード
女性(40歳未満)	59,790ルーブル (約179,000円)	40,350ルーブル (約121,000円)	15,210ルーブル (約46,000円)	10,200ルーブル (約30,000円)
女性(40歳以上)	65,010ルーブル (約195,000円)	45,430ルーブル (約136,000円)	18,130ルーブル (約54,000円)	13,050ルーブル (約39,000円)
男性(40歳未満)	55,630ルーブル (約167,000円)	36,180ルーブル (約109,000円)	12,710ルーブル (約38,000円)	7,620ルーブル (約23,000円)
男性(40歳以上)	58,300ルーブル (約175,000円)	38,710ルーブル (約116,000円)		

1ルーブル=3円換算

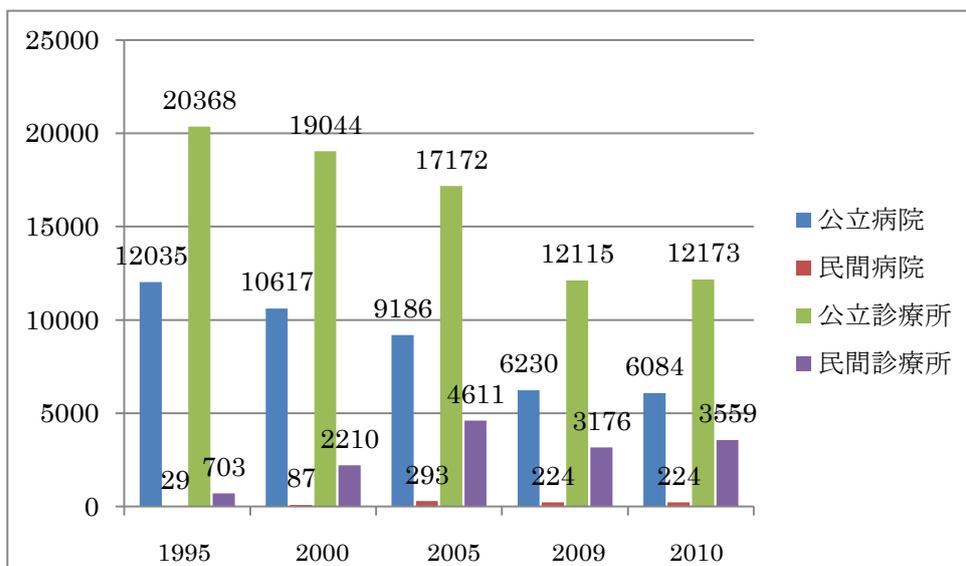
出所) イングストラフ社任意医療保険説明資料を基に作成

3) 医療機関

- ① 医療機関の総数は、集約化が進み、ソ連崩壊後大きく減少している。2010年現在で、病院は約6,300施設、診療所は約15,700施設あるが、病院では、公的病院が減少しているものの、未だ95%以上が公的病院となっている。また、診療所でも、公立が大きく減少しており、民間の診療所が次第に増加している。

ロシアの医療機関は、入院施設を有する病院と有しない外来診療所の2種類ある。公的医療サービスを受ける場合は、地域の公立の外来診療所に行き、診療を受けたうえで必要に応じて病院への紹介状が発行されることになる。公的医療機関に対しては、医療水準や待ち時間、ホスピタリティについての不満があり、民間医療機関へいく人も多い。また、インターネット等を利用して自分で自分の症状に合った薬を探したり、薬草等を研究する人も多い。

図23 ロシアの病院と外来診療所の数



出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

表9 ロシアの医療施設数

	1995年	2000年	2005年	2009年	2010年
病院(hospital)	12,064	10,704	9,479	6,454	6,308
-うち民間病院	29	87	293	224	224
-うち私立病院(民間資本で建てられた病院)				107	115
外来診療所(clinic)	21,071	21,254	21,783	15,291	15,732
-うち公立診療所	20,368	19,044	17,172	12,115	12,173
-うち民間診療所(企業や組織に属する診療所を含む)	703	2,210	4,611	3,176	3,559

出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

表10 ロシアの病院と外来診療所の数

	1995年	2000年	2005年	2009年	2010年
病院の数(単位:1,000件)	12.1	10.7	9.5	6.5	6.3
病床の数(単位:1,000件)	1,850.5	1,671.6	1,575.4	1,373.4	1,339.5
人口1万人あたり病床の数	125.8	115.0	111.3	96.8	93.7
外来診療所の数(単位:1,000件)	21.1	21.3	21.8	15.3	15.7
7時間あたり患者の訪問数(単位:1,000件)	3,457.9	3,533.7	3,637.9	3,657.2	3,691.9
人口1万人あたり患者の訪問数	235.1	243.2	256.9	257.7	258.3

出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

地域別の状況：地域別の医療機関の数は概ね人口に比例しており、全国の医療機関の約80%がウラル以西に集中している。

表11 ロシアの各地域の医療施設数（2009年）

	病床の数 (1,000床)	人口1万人あたり 病床の数	1病床あたり 患者の数	外来診療所 「7時間あたり 患者の訪問数 (1,000件)」	外来診療所 「人口1万人あたり 患者の訪問数」
中央連邦管区	366.6	98.8	101.3	1027.6	276.9
北西連邦管区	130.6	97.2	102.9	405.7	301.9
南連邦管区	201.4	87.7	114.0	475.3	207.0
沿ヴォルガ連邦管区	284.2	94.4	105.9	733.6	243.7
ウラル連邦管区	115.8	94.3	106.1	330.6	269.2
シベリア連邦管区	205.6	105.1	95.1	520.4	266.0
極東連邦管区	69.2	107.5	93.0	164.5	255.5

出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

図24 ロシアの連邦管区



出所) FOTW Russia map by Antonio Martins and Jorge Candeias and boundaries' data

- ② モスクワ市においては、2010年現在で、232の病院と1,337の診療所がある。病院の割合は、全国の3～4%となっているが、病床の数は人口に比例して確保されている。

企業が集積し所得も高い人が多いモスクワにおいては、民間医療機関へのニーズも高くなるが、ある保険会社へのヒアリングによると、子ども医療、不妊治療、リハビリ、高齢者医療、整形外科、心臓などの専門医のいる病院や、市内に複数点在しどこの施設でも同じ治療が受けられるチェーン店方式のクリニックが求められているとしている。

表12 モスクワ市の病院と外来診療所の数

	1995年	2000年	2005年	2009年	2010年
病院の数	221	226	246	232	232
病床の数(単位:1,000件)	106.3	104.3	104.8	107.4	107.8
人口1万人あたり病床の数	115.0	103.1	100.5	101.6	93.3
外来診療所の数	897	1,357	1,584	1,505	1,337
7時間あたり患者の訪問数(単位:1,000件)	340.0	356.3	366.2	370.2	372.1
人口1万人あたり患者の訪問数	367.7	352.2	351.3	350.7	322.2

出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

#### 4)医療従事者

- ① ロシアで医師になるには、大学の医学部や医科大学で6年間の教育を受けた後、2年の臨床研修を受ける必要がある。看護師になるには、公立の医療専門学校や大学で3～4年間の教育を受ける必要がある。

医師の数は71万人で、人口1万人当たりの数は50人となっており、主要国の中でも多くなっている。看護師の数は151万人で人口1万人当たりの数は105人で医師の約2倍程度である。

表13 ロシアの医師・看護師数

	1995年	2000年	2005年	2010年
<b>医師(単位:1,000人)</b>	<b>653.7</b>	<b>680.2</b>	<b>690.3</b>	<b>715.8</b>
内科医	153.4	159.2	159.7	164.8
外科医	85.2	62.3	65.0	70.5
産婦人科医	40.8	41.9	42.9	43.7
小児科医	76.1	72.1	68.6	68.9
眼科医	14.9	15.5	16.2	16.9
耳鼻科医	12.2	12.6	12.7	12.4
神経科医	20.0	23.2	25.1	26.5
精神科医および麻薬中毒専門の医師	19.4	23.6	24.7	24.2
結核科医	10.1	9.9	9.5	8.8
皮膚科医	9.6	11.4	12.1	12.1
放射線科医	19.4	18.4	18.2	18.8
感染管理者、衛生管理者	34.2	27.8	19.4	17.8
歯科医	49.1	55.9	62.0	60.6
人口1万人あたり医師	44.4	46.8	48.8	50.1
<b>看護師(単位:1,000人)</b>	<b>1,628.8</b>	<b>1,563.6</b>	<b>1,529.8</b>	<b>1,508.7</b>
人口1万人あたり看護師	110.8	107.6	108.0	105.6

出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

**表 1 4 医師数の国際比較**

国	医師数 (1,000 人)	人口 100,000 人 あたりの医師数	年
ロシア	711.3	501	2009
ドイツ	292.1	354	2008
日本	275.1	215	2006
アメリカ	816.7	271	2007
中国	2,082	158	2008

出所) ロシア連邦国家統計局、OECD及びWHOのヘルスデータを基に作成

② モスクワ市においては、医師の数は増えており、89,700人、人口1万人当たり77.6人となっている。看護師の数は、114,700人、人口1万人当たり99.3人となっている。また、ロシアでは医療関係者の給料は高くないと言われているが、モスクワ市の医師の月額賃金は約40,000ルーブルとなっており、他の地方に比べ大きく伸びている。

なお、ある保険会社によれば、モスクワ市には優秀な医師が集まっており、医師の月給は、国立病院で3万5千～5万ルーブル、民間病院で5万～11万ルーブル、スーパーといわれる医師が35万ルーブル程度である。また、モスクワ大学の学生の話によると、優秀な学生は給料が安いので医師にはならないとのことであった。

**表 1 5 モスクワ市における医療従事者数（単位：人）**

	2008 年	2010 年
<b>医師</b>	<b>84,900</b>	<b>89,700</b>
内科医	20,160	20,822
外科医	10,452	11,213
産婦人科医	4,804	5,017
小児科医	6,616	6,942
眼科医	2,594	2,812
耳鼻科医	1,669	1,761
神経科医	3,185	3,406
精神科医および麻薬中毒専門の医師	3,598	3,451
結核科医	629	624
皮膚科医、性病科医	1,717	1,679
放射線科医	2,426	2,661
感染管理者、衛生管理者	1,444	1,477
歯科医	8,773	8,983
その他	16,833	18,852
人口1万人あたり医師	80.7	77.6
<b>看護師</b>	<b>107,400</b>	<b>114,700</b>
人口1万人あたり看護師	102.2	99.3

出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

表16 ロシアにおける業種別平均月額賃金（単位：ルーブル≒3円）

業種別	2008年	2009年
総合	17,290.1	18,637.5
農業	8,474.8	9,619.2
建築	18,574.0	18,122.2
不動産	21,275.0	22,609.7
教育	11,316.8	13,293.6
医療	13,048.6	14,819.5

出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

表17 ロシア医師の地域別平均月額賃金（単位：ルーブル≒3円）

市名、地域名	2008年	2010年
モスクワ市	29,967.3	39,969.1
サンクト・ペテルブルグ市	18,212.2	23,568.3
ロストフ州	9,179.5	11,529.2
スタヴロポリ州	9,315.4	12,128.1
ウリヤノフスク州	8,581.0	11,096.1
チェリヤビンスク州	10,851.6	12,706.3
トムスク州	13,023.0	15,576.7
サハリン州	22,205.8	27,385.2

出所) ロシア連邦国家統計局資料を基に作成

## 5)医療機器

① 最新の医療機器を整備した近代的な病院は、一部の都市に限定されている。機器の更新が遅れているため、十分な診断、治療が行うことができないのみならず、それを使う医療技術者の不足が指摘されている。

このため、ロシア政府では、老朽化した公的病院等の改築や医療設備、機器の更新、導入を推進している。

② 民間の医療機関では、MRI、CTスキャン、マンモグラフィ等を導入しているところも多くなっている。また、電子カルテや待ち時間表示を行っているクリニックもあった。ただし、遠隔画像診断を導入するなどしているところもあり、設備、機器を使いこなしているかについては疑問がある。

③ 予算不足により、国立病院では部品の購入やディスプレイ製品の購入ができない。

## 第3章 当該対象国・地域への展開に係る法制度及び規制

### 3-1. 日本人医師による医療行為の可能性

ロシアで医師業を行うには、ロシア国内の大学の医学部（医科大学）を卒業し、かつ、医師の資格証明書及び医業許可書を取得する必要がある。

また、ロシア国外で医師の資格を得た者がロシア国内で医療を行うためには、次の二つの手続きを取る必要がある。

- ① 連邦行政機関において、国外で履修してきた医学の内容がロシア国内の教育内容と同等である旨の承認を受ける。
- ② ロシア連邦の教育機関において試験に合格し、医業に必要な許可を受ける。

具体的には、まず、教育・科学監督庁に対して、申請者の身分証明書、卒業証書の原本、当該卒業証書の添付資料（履修科目等の記載）、資格証明書、経歴を証明する書類及びこれらのロシア語訳を提出する。同庁は、外国で履修した教育内容はロシア国内の教育内容と十分に同等性があるかを審査し、当該国外での履修内容を承認すべきと判断されたときに承認証明書を交付する。その後、保健・社会発展監督庁に対して、医師として許可を受けるため、申請書、医学課程修了証書の写し（公証人に公証されたもの）、写真等を提出する必要がある。同庁では、申請者の医師としての能力を確認するため、特定の大学に設置された試験委員会に依頼し、ロシア語により試験が行われる。この試験に合格した場合に申請者に医師の証明が与えられ、医療を行うことが許可される。なお、ロシア語での試験について、同試験を受けたイギリスの医師免許を有する日本人に確認したところ、通訳を介した試験であったということであった。

これらの手続きは、書類の準備、翻訳等の煩雑なものであり、また、省庁が守るべき審査期間が定められていないため、かなりの時間を要する。①の承認手続きだけでも4か月以上かかるといわれている。

なお、許可を得ることなく医療を行った場合には、次のような罰則が科される。ロシア行政違反法第6. 2条1項では、許可のない者が医療を行う場合、2, 000から2, 500ルーブルの罰金、ロシア刑法第235条1項では、許可のない者が医療を行った結果、人の健康に損害を与えた場合、120, 000ルーブルの罰金又は被告人の1年間の年収額に相当する罰金、若しくは3年までの懲役が科される。人の死亡につながった場合は5年までの懲役が科される。

1年以内で直接に患者に治療を行うことなく、ロシアの医師にアドバイス・援助を与え、日本の医療を普及する場合は、人文ビザを取得することができる。

### 3-2. 日本からの資本参加

ロシアでは、分野により外国資本参加の活動が制限されることがあるが、医療についてはとくに制限は設けられていない。このため、資本参加は自由であるが、医療を行うためには、医療ライセンス（事業許可）を取得する必要がある（ライセンス法第12条1項46号）。

この許可は、民間医療機関については、ロシア連邦の構成主体（州など）の保健当局が、ハイテク医療（心臓等の移植治療、脳外科手術等）を行う医療機関については、連邦保険・社会発展監督庁が担当している。

許可を取得及び維持するためには、次の要件を満たす必要がある。

- ① 申請者が申請された医療分野に必要な施設、設備、機器を有すること。

- ② 申請者の最高責任者、その次長又は医療部門の部長が、医療大学卒業であり、かつ、医療大学院卒業であり、かつ、5年以上の医療業務経験を持つこと。
- ③ 申請者の職員には当該医療分野に適する医療教育を受けており、かつ、専門医許可証を有する専門医を備えていること。
- ④ 被許可者に属する専門医が5年間置き以上に専門研修を受けること。
- ⑤ 被許可者が治療方法（機器）の所定使用規則を遵守すること。
- ⑥ 被許可者が衛生規則を遵守すること。
- ⑦ 被許可者が基準適合及び品質管理を行うこと。
- ⑧ 被許可者が有料医療サービスの規則を遵守すること。
- ⑨ 被許可者の職員には、医療メンテナンスの専門家を備え、あるいは医療設備メンテナンスのライセンスを持つ組織と業務委託契約を締結すること。
- ⑩ 被許可者が所定の記録を管理すること。

また、許可申請に当たり、会社に関する証明書（定款、国家登録証明書、税務登録証明書、登記簿謄本等）、使用予定の施設や設備に関する証明書、専門家の採用に関する証明書（卒業証明書、職歴証明書等）等の提出を要する。

許可機関は、上記書類を審査し、45日間以内に許可を行うか否かの決定を行う義務がある。許可が拒否された場合、異議申し立てを行うことができる。

許可の有効期間は無制限であるが、許可取得者側に上記取得・維持要件に違反があった場合、要件を満たさなくなった場合には、許可が中止され、あるいは裁判により許可が取り消されることになる。

### 3-3. モスクワの医療サービスの調査

#### 1) モスクワの医療機関等の現状

##### ① 公的医療機関

国公立の病院は、原則入院専門であり、診療所が外来を実施しているが、モスクワ市内の病院では、外来も実施しているところが多い。また、人口の割に病院数が少ないことから、1病院当たりの入院患者数も多く、Botkin 病院では、2,000人以上の定員となっており、1,000人以上の病院も今回内視鏡の指導を行った第31病院をはじめ第4病院、第52病院などがある。

これらの公立病院、診療所はかねてから、建物の老朽化、医師の医療技術、設備・器具、ホスピタリティなどに問題があるといわれ、政府も改善を図っているところであり、一部建替え、設備更新も行われているが、今回行ったアンケートによってもロシアの医療水準に満足していないことが裏付けられた。（建物の古さはアンケート項目になし。）

また、今回訪問した病院では、内視鏡担当がすべてを内視鏡を使って診断するなど、他のセクションとの共同作業がみられないという問題点がみられた。

**表18 モスクワの公立病院**

病院名	医師数	1日あたり外来患者数	病床数	入院患者数
Botkin 病院	600 人	350 人	2,092	年間 40,000 人程度 約 100~200 人程度/日
第 4 号病院	292 人	年間 60,000 人以上	1,035	年間 30,000 人程度
第 52 号病院	188 人	なし	1,160	年間 34,000

**出所) 弁護士事務所による調査を基に作成**

② 民間医療機関

公的医療機関の不評とともに、民間の医療機関が増加傾向にあるが、民間の医療機関としては、複数の診療科を持つものに加え、歯科、眼科、美容整形など単科診療所もみられている。また、外資系の名前を付けた高度な医療を売りものにする医療機関もあるが、実態は、ロシア人が海外で設立した会社が出資するなどしているのがほとんどであるとの弁護士からの話もあった。

今回の調査の中で、外資系民間クリニックを受診した人からヒアリングをしたところ、熱が出て受診したが、インフルエンザが流行していたためか、医師は検査をしないで風邪薬を処方した。(実際は別の病気であった。)

また別の人は、検査をした後、翌日結果を電話すると言われたが数日たっても電話がなかったなどの話を聞いた。

一方、検査結果はきちんと連絡があったという人もいて、民間の医療機関でも医師によって様々な対応がなされていることが推定された。

モスクワのある保険会社が運営している新しいクリニックを視察したが、施設概要は、次のとおりであった。当該保険会社は、ロシア全土に9か所のクリニック(モスクワ市内3か所、うち1か所は小児専用)を開設し、被保険者はどこのクリニックでも良質な診察を受けることができることを宣伝している。

建 屋：6階建、診察室47室程度、入院設備は無し(昼間の一時入院は実施)

診療科目：多岐に渡る(産科、歯科もある。)

診療設備：CT、マンモグラフィ、エコーなどGE社製4台、内視鏡(オリンパス社製)

患者数：約1,000人/日、一人30分の予約制(歯科は1時間)

往 診：20人程度/日(一人の医師が6~8人担当)

スタッフ：300人(非常勤を含む。一大学の専門医もアルバイトで来る。)

そ の 他：電子カルテ採用、診察室前に待ち時間を表示

自社の任意保険のほか他社の任意保険も契約している。

救急医療の実施(24時間体制、医師・看護師同乗—入院時は契約病院へ運搬)

**表19 モスクワの民間病院**

	病院名	医師数	1日あたり外来患者数	病床数	入院患者数
外 資 系	アメリカンメディカルセンター (MEDSI)	300人以上	n/a	120	n/a
	スイスディングホスピタル(OAOメディターナ)	340人以上	n/a	35	n/a
	ヨーロッパアンメディカルセンター(EMC)	約200名	n/a	48	n/a
国 内 系	Gipoxia Medical	35人	40人程度	18	n/a
	Family Doctor	500人程度	2,000人程度	n/a	n/a
	SM Clinic	1,000人以上	n/a	14	n/a

**出所) 弁護士事務所による調査を基に作成**

## 2) 医療機関等に対する市民の評価

インターネットを利用したアンケートを実施した。

モスクワ市及びモスクワ州に居住する10代から60代の会社員、公務員、自営業等の200人からロシアの医療の改善点を聞いた。

その結果、「医療設備・機器」の改善を指摘したものが139人、「医療スタッフの診断・治療技術」の改善が128人、「医療スタッフのホスピタリティ」が89人、「診断・治療費用の透明化」が85人となっており、「改善点なし」とした者は10人に過ぎなかった。

**表20 ロシアの医療に関する意識調査(その1)**

現在のロシアの医療について改善が望ましいと思う点がありますか。

		(複数回答有)	回答数	%
全体			200	100.0
1	特に改善点はない		10	5.0
2	医療スタッフの診断・治療技術		128	64.0
3	医療設備・機器		139	69.5
4	診断・治療費用の透明化		85	42.5
5	医療スタッフのホスピタリティ		89	44.5
6	その他		1	0.5

**出所) モスクワ市及び近郊在住者への独自インターネット調査**

また、モスクワの日本センターの協力を得て、同所で日本語を学ぶ、20代、30代を中心とした比較的若い人の意見を聞いたが、率こそ違おうが同様の傾向で、ロシアの医療について「改善点はない」としているのは2人のみであり、「医療設備・機器」、「医療スタッフの診断・治療技術」及び「医療スタッフのホスピタリティ」については半数以上が改善を必要としている。

**表21 ロシアの医療に関する意識調査（その2）**

現在のロシアの医療について改善が望ましいと思う点がありますか。

	(複数回答有)	79	100%
①特に改善点はない		2	3%
②医療スタッフの診断・治療技術		52	66%
③医療設備・機器		58	73%
④診断・治療費用の透明化		27	34%
⑤医療スタッフのホスピタリティ		45	57%
⑥その他		6	8%

**出所) 在モスクワ日本センター、日本語講座受講生への独自アンケート調査**

### 3-4. ジャパンメディカルセンターの開設

#### 1)開設の経緯

ロシアに日本式医療サービスの普及・啓発活動のための拠点として、ロシアの首都であるモスクワ市にジャパンメディカルセンターを設置することとした。具体的には2011年7月の事前調査により、今年度はモスクワ市内の民間クリニックのパテロクリニック (Patero Clinic) 内に一室を借用することとした。今年には特に内視鏡分野における診断、治療のアドバイスならびに臨床（法的には認められた行為ではないが、パテロクリニックのゲオルギー院長の強い要請及び患者からの快諾を受けて）も行った。

#### 2)セミナー・講演の開催

- ① 日時：2011年9月8日（木）10：00～13：30  
場所：パテロクリニック  
講師：工藤進英・昭和大学医学部教授  
参加者：在モスクワの若手医師50名、ベテラン内視鏡医師30名  
題目：大腸内視鏡の挿入手技と早期がん診断術（ピットパターン）について
- ② 日時：2011年11月16日（水）17：00～19：30  
場所：大統領府付属ポリクリニック  
講師：西野徳之・総合南東北病院消化器内科センター長  
参加者：ロシア内視鏡学会モスクワ支部所属内視鏡医師125名  
題目：患者さんに優しい内視鏡挿入法と診断、早期癌に対する対応
- ③ 日時：2012年1月13日（金）14：00～  
場所：モスクワ大学第31病院  
講師：石田文生・昭和大学横浜市北部病院消化器センター医師  
参加者：ロシア内視鏡学会モスクワ支部所属内視鏡医師  
題目：大腸がんに対する腹腔鏡治療について
- ④ 日時：2012年1月25日（水）17：00～  
場所：モスクワ第31病院  
講師：和田祥城・昭和大学横浜市北部病院消化器センター医師  
参加者：ロシア内視鏡学会モスクワ支部所属内視鏡医師  
題目：大腸病変の診断と処置

- ⑤ 日時：2012年1月30日（月）  
 場所：サンクト・ペテルブルグ市立小児科医科大学  
 講師：西野徳之・総合南東北病院消化器内科センター長  
 参加者：ロシア内視鏡学会サンクト・ペテルブルグ支部所属内視鏡医師25名  
 題目：患者さんに優しい内視鏡挿入法と診断、早期癌に対する対応

- ⑥ 参加者の評価  
 一部セミナーについて、アンケート形式で参加者から評価を得たが、「大変良かった」、「良かった」が98%とほとんどであり、日本の内視鏡技術への評価の高さを感じたところである。また、有料のセミナーへの参加希望は、85%と高かったが、受講料については、1,000ルーブルが最多で33%、500ルーブルが18%と低い受講料の希望が過半数を占めたが、中には12,000ルーブルという評価をした受講生もいた。

**表22 セミナー参加者のアンケート**

本日のセミナー全体の感想

	40	100%
①大変良かった	27	68%
②良かった	12	30%
③普通	1	3%
④良くなかった	0	0%

有料でも受講を希望しますか？どのようなテーマを希望されますか。

	40	100%
① はい	34	85%
② いいえ	5	13%
③無回答	1	2%

「はい」と答えた方は、幾らくらいなら受けてもよいと思いますか？

	40	100%
①500ルーブル	7	18%
②1,000ルーブル	13	33%
③2,000ルーブル	3	8%
④3,000ルーブル	3	8%
⑤5,000ルーブル	3	8%
⑥12,000ルーブル	1	3%
⑦無回答	17	43%

**出所) 在モスクワ医師への独自アンケート調査**

### 3)ロシア人医師に対する技術指導(内視鏡)

#### ① 実施内容

日本から医師を8人モスクワに派遣し、ロシア人医師に対して153人の患者に対する内視鏡検査の場でアドバイスや補助的施行、診断を行った。

・医師名 工藤進英 昭和大学医学部教授

期間 2011. 9. 7～9

指導場所 パテロクリニック

・医師名 西野徳之 財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院消化器センター長

- 期間 2011. 9. 28～10. 8、11. 13～25、  
2012. 1. 28～2. 3
- 指導場所 パテロクリニック、31病院、救急病院、レニングラード中央地区病院
- その他 パテロクリニック、大統領府附属ポリクリニック、サント・ペテルブルグ  
小児科医科大学で講演活動
- ・ 医師名 河野孝一郎 医療法人倚山会田岡病院消化管内視鏡科医師  
期間 2011. 10. 6～15  
指導場所 パテロクリニック  
その他 ロシア消化器病学会に参加
  - ・ 医師名 工藤豊樹 昭和大学横浜市北部病院消化器センター医師  
期間 2011. 10. 29～11. 11、12. 9～20  
指導場所 パテロクリニック、31病院、救急病院、郊外病院
  - ・ 医師名 松平信吾 昭和大学横浜市北部病院消化器センター医師  
期間 2011. 11. 28～12. 8  
指導場所 パテロクリニック  
その他 ロシアの医療機器展示会視察
  - ・ 医師名 伊藤透 金沢医科大学教授  
期間 2011. 12. 13～19  
指導場所 ヤロクラブリ医科大学癌研究所病院
  - ・ 医師名 石田文生 昭和大学横浜市北部病院消化器センター医師  
期間 2012. 1. 9～16  
指導場所 パテロクリニック  
その他 31病院で講演活動
  - ・ 医師名 和田祥城 昭和大学横浜市北部病院消化器センター医師  
期間 2012. 1. 15～29  
指導場所 パテロクリニック

② ロシア人医師からの評価

今回、ロシアで使用している設備・器材が異なり、日本人医師たちも苦勞してアドバイス、指導に当たったが、ロシア人医師からは日本人医師の操作技術や診断技術について大変好評価を得ることができた。また、ロシア人患者からも苦痛が少ないなどの評価を得た。

③ 日本人医師からの評価

ロシア人医師は、熱心に技術取得に取り組んでいたが、内視鏡の指導を通じて以下のような評価がなされた。

- ・ ロシア人医師の内視鏡技術が十分でない。
- ・ 患者の内視鏡検査に対する恐れがみられる。
- ・ 医師や看護師の患者への配慮が足りない。
- ・ 内視鏡検査の前処置（胃液の除去）が十分でない。
- ・ 前処置薬（鎮痙剤）の投与がなされない。
- ・ 咽頭麻酔、局所麻酔が拒否されることがある。
- ・ 10分の1の患者が麻酔の投与を希望する。
- ・ 麻酔薬の投与は麻酔科でなければならない。

・かなりの比率で、前処置なしで大腸内視鏡検査を行う。等  
これらについては、ロシアで内視鏡医療の普及が進んでいないことが理由であるが、内視鏡を活用したよりよい医療を提供できるよう日本の技術の伝達に今後とも協力して取り組んでいく必要がある。

#### **4)ロシア人医師の研修受け入れ**

ロシア人の研修を受け入れる病院の状況を見てもらうため、パテロクリニックの院長を総合南東北病院に招待した。総合南東北病院は、外国人研修修練病院となっており、すでに中国人医師、ブルネイ人医師が研修を実施した実績がある。また、陽子線やガンマナイフなど最先端のがん治療設備、PET や64マルチCTなどの充実した検診設備を備えており、手術件数も年間6,000件を超えるなど、充実した病院であり、院長に大きな感銘を与え、今後のお互いの連携を約束したところである。

#### **5)日本の医療についての評価(期待)**

今回の内視鏡の指導やセミナーの開催など、日本の医師に対する評価はパテロクリニックの院長やモスクワ内視鏡学会の会員から寄せられているが、インターネットアンケートにより、医師や市民などに日本の医療についての期待を調査した。これによるといずれも日本の医療技術、サービスにはかなりの関心を持っていることがわかった。

**表23 モスクワ市民の日本の医療への関心度**

日本は世界的にも医療水準の高い国のひとつと自負していますが、日本式医療技術・サービスを提供する病院がロシアに開設されたら受診してみたいですか。

		回答数	%
全体		200	100.0
1	大いに興味がある	82	41.0
2	興味がある	85	42.5
3	あまり興味がない	16	8.0
4	興味がない	8	4.0
5	分からない	9	4.5

健康診断は日本では国の法律で年1回の受診が義務づけられていますが、ロシアで開設される日本式の病院で同様の健康診断を受診したいと思いますか。

		回答数	%
全体		200	100.0
1	大いに思う	58	29.0
2	思う	119	59.5
3	あまり思わない	12	6.0
4	全く思わない	5	2.5
5	分からない	6	3.0

あなたが持病で困っていて、その持病がロシア国内では治療が難しいが、日本では治療可能な場合、日本に来て治療を受けたいと思いますか。

		回答数	%
全体		200	100.0
1	大いに思う	72	36.0
2	思う	95	47.5
3	あまり思わない	15	7.5
4	全く思わない	9	4.5
5	分からない	9	4.5

**出所) モスクワ市及び近郊在住者への独自インターネット調査**

**表2 4 在モスクワ・ロシア人医師の日本の医療への関心度**

日本との医療分野における日本の経験の見聞、相互訪問、研修や学会の共催等人的技術的交流に興味はありますか。

		回答数	%
全体		100	100.0
1	大いにある	27	27.0
2	ある	69	69.0
3	あまりない	2	2.0
4	ない	1	1.0
5	分からない	1	1.0

日本人医師によるセミナーがあればどのようなセミナーを希望しますか。

		回答数	%
全体		100	100.0
1	特定専門分野の技術向上	83	83.0
2	日本人医師との交流	72	72.0
3	日本の医療機関・医療機器メーカーの見学	45	45.0
4	日本の保健医療事情の見学や講義受講	33	33.0
5	希望しない	1	1.0
6	その他	0	0.0

**出所) モスクワ市及び近郊在住する医師への独自インターネット調査**

### 3-5. 画像遠隔診断システムの運営

#### 1)設置の経緯

本プロジェクトでは、日本人医師1名ないし2名がジャパンメディカルセンターに常駐する計画であったが、当該医師がすべての診療分野に通じているわけではない。特に現在の日本の医療界では、医師はそれぞれ専門分野を特化し、各々の専門分野の医師による組織的医療を行っている。従って、日本人医師1名ないし2名が常駐しても、すべての診療分野をカバーできるものではないため、ロシア側から要望が上がってきた患者の診断について、遠隔画像診断システムの導入を試みた。

Hoster-JP (以下、HJP) が提供した遠隔画像診断システム (以下、MDTS) の導入、運用および今後の課題について報告する。

#### 2)システムの概要

MDTS は遠隔診断に使用する医療データを通信するためのシステムである。

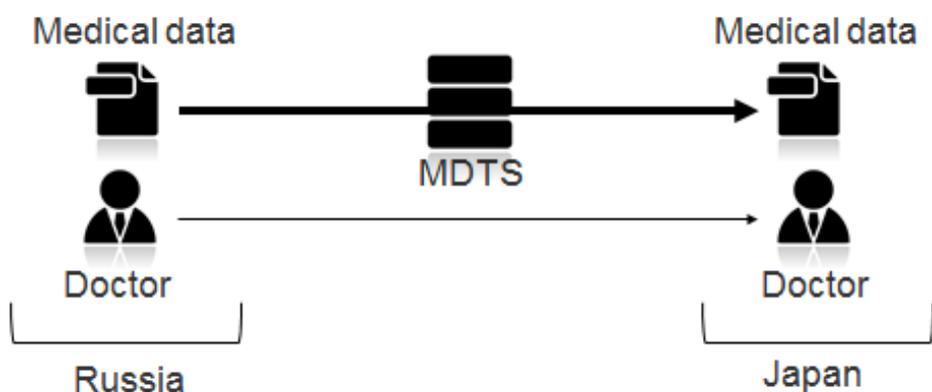
日本とロシアの病院間における、医療データの受渡しを、確実・安全・簡単に実施することを目的とする。セキュリティを確保しつつ、シンプルな転送システムとする。

図 2 5 MDTS のメリット



出所) Hoster-JP 作成

図 2 6 MDTS の概要図



出所) Hoster-JP 作成

### 3)MDTS の特徴

ロシアと日本のデータセンターに設置された転送サーバで医療データは自動的に転送される。1カ国の転送サーバを利用する場合に比べ、約10倍から20倍の速度で医療データのアップロードやダウンロードを行うことができる。

<ロシアから日本への自動転送>

医療データの登録が完了すると、ロシアから日本へ医療データが自動で転送される。(逆も同様)

- 暗号化通信で自動転送
- データ転送に失敗しても自動で再送

図 2 7 MDTs の画像転送イメージ



出所) Hoster-JP 作成

日本へ医療データの転送が完了すると、データ受領準備完了の電子メールが、医療データを受け取る医師へメールで通知される。

- 通知電子メールが医療データの受領準備完了を医師へお知らせ

図 2 8 日本側での画像受診の流れ



出所) Hoster-JP 作成

- MDTs は HJP が持つ以下のデータセンターに設置されている。  
ロシア：モスクワデータセンター  
日本：東京都内データセンターMDTS のセキュリティ
- MDTs に保存される医療データは、AES-256 で暗号化され転送されるので、第 3 者による盗用の心配がない。また、医療データはデータセンターに設置された 24 時間 365 日の監視の元、安全に一定期間保存される。

#### 4)MDTS のシステム仕様と提供スキーム

図 2 9 提供スキーム



出所) Hoster-JP 作成

図 3 0 システム仕様

項目	内容
国際転送	日本・ロシア間のデータ自動転送 (暗号化)
ファイル保管期間	7 日間
送受信最大容量	1 GB
同時送受信可能ファイル数	5 ファイル/ 1 送信
運営	事務局(Hoster-JP) アカウント追加・編集、サーバ管理 障害サポート (平日 9 : 0 0 - 1 7 : 0 0)

出所) Hoster-JP 作成

#### 5)MDTS の運用

MDTS を使用して、ロシアの病院から日本の病院へ合計 3 回の医療データのやりとりを実施した。ロシア人医師から医療データを受領した日本人医師が効率的に診断できるよう、リクエスト診断フォーマットを作成した。フォーマットの作成は、モスクワへ訪問した昭和大学の石田先生のご協力により作成した。

#### 6)MDTS のコスト

以下に本プロジェクトにおける MDTS のコストを記載する (実際の HJP 発受注コストとは異なる)。

**表 2 5 MDTs の開発コスト（一例）**

開発コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アプリケーション <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 要件定義</li> <li>➤ 設計開発</li> <li>➤ テスト</li> </ul> </li> <li>・ インフラ <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ サーバ手配</li> <li>➤ システム設計</li> <li>➤ システム構築</li> </ul> </li> </ul>	20 人/日
運用費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IT インフラ運用</li> <li>・ MDTs システム事務局</li> </ul>	8 人/日（2 人/日×4 ヶ月）
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロシア・日本間の遠隔画像診断プロジェクト調整</li> </ul>	1 9 人/日
計		3 5 2 万円

*出所）Hoster-JP 作成*

## 7)画像遠隔診断の価格

パテロクリニックでは、MRI、CT、X線、マンモグラフィについて、ベルギーの会社と画像遠隔診断の契約を結んでいる。1回の画像診断料は80ユーロで、患者から別料金を徴収している。患者に必要なに応じ勧めているが、利用されるのは多くない状況である。画像診断のほかに、各種検査データを送信して治療方法等についての助言を得ることもできるが、これには1,000ユーロ必要になる。パテロ側の経費は、このシステムに接続するのみでほとんどかからない。

内視鏡の遠隔診断についても患者から同程度料金を取るとは可能であるとパテロクリニックでは考えている。

## 8)課題と評価

- ① 日本とロシアの病院間で医療データが迅速・確実・安全に受け渡しができることになった。これにより、患者の希望により日本での治療への道が開けた。
- ② 遠隔診断の診断料を別途徴収するため、利用者数に疑問がある。また、画像撮影者の技術により適切な診断がなされるか疑問がある。
- ③ どのような部位でも適切に判断できるよう、日本側の体制の整備を急ぐ必要がある。
- ④ 契約の詳細を詰める必要がある。
- ⑤ 診断結果をその場で協議するためのTVシステムの構築をパテロクリニックより要望された。

## 9)画像転送診断の普及状況

画像転送システムを利用したことがある医師が47人と約半数おり、「大いに有効」、「有効」であるが79人を占めている。これは、設備を導入しても読解力がないことを示しているのか興味深い。

**表26 ロシア人医師による画像転送診断に関する関心度調査**

超音波、内視鏡、CTスキャンやMRI等で撮影した画像を別の医療機関に転送して、セカンドオピニオンを聞いたり、述べたりした経験はありますか。

		回答数	%
全体		100	100.0
1	ある	47	47.0
2	ない	48	48.0
3	分からない	5	5.0

画像転送診断によるセカンドオピニオンは有効と思いますか。

		回答数	%
全体		100	100.0
1	大いに有効である	11	11.0
2	有効である	68	68.0
3	あまり有効ではない	16	16.0
4	有効ではない	0	0.0
5	分からない	5	5.0

海外、特に日本の医療機関との画像転送診断システムには関心がありますか。

		回答数	%
全体		100	100.0
1	大いに関心がある	14	14.0
2	関心がある	68	68.0
3	あまり関心はない	14	14.0
4	全く関心はない	4	4.0
5	その他	0	0.0

「関心がある」と答えた方にお聞きします。画像転送診断システムをより有効なものにするための条件はどのようにお考えですか。

		回答数	%
全体		82	100.0
1	日本側の診断能力の検証	21	25.6
2	相互交流・信頼関係の醸成	53	64.6
3	正式な契約書の締結	23	28.0
4	研修会・学会等の共催	57	69.5
5	その他	1	1.2

**出所) モスクワ市及び近郊在住する医師への独自インターネット調査**

### 3-6. 健康診断の普及状況や企業の認識

#### 1) 行政の対応

ロシアにおいては、公的医療機関において、被雇用者は無償で健康診断を受けることができる。内容は、内科、婦人科、外科、眼科、神経内科による診断、血液検査、尿検査、心電図検査、胸部レントゲン、45歳以上の女性と40歳以上の男性は、癌マーカー（女性は乳房X線撮影も行う。）となっており、日本とほぼ同じ内容となっている。しかしながら、待ち時間や各科を受診する煩雑さなどから受診率はそれほどではない。

また、大学入学時や軍隊入隊時に健康診断が義務付けられているほか、パイロットや船乗り、運転手などの職種によって健康診断が義務付けられており、モスクワ市においてこれらはほぼ

守られている。

## 2)市民の健康診断の受診状況

モスクワ市で把握している義務的に健康診断を実施しなければならない者の受診率は、97.3%と高くなっているが、それ以外の者も含めた実施状況を把握するため、インターネットを利用したアンケートを実施した。

モスクワ市及びモスクワ州に居住する20代、30代を中心とした会社員、公務員、自営業の人から健康診断の受診状況等について聞いた。「非定期に受診」しているが47.5%、「定期的」が43.5%と91%の人が健康診断を受診している。その費用は、「全額自己負担」が46.7%と多く、続いて「全額勤務先負担」が26.9%となっている。負担した費用は、34.1%が「無料」、27.5%が「1,000～5,000ルーブル未満」、13.7%が「300～1,000ルーブル未満」となっている。

また、現在の健康診断に満足している人は3分の2を占めており、医師のアンケートにおいても健康診断は受診者の健康管理に有効に機能しているとしている。一方で国民の健康管理意識の低さを指摘する医師も25%いる。

一方、実際に検査を受けた項目をみると、受診者数に比して受診項目の数が少ないことから、義務的に受診しなければならない項目のみを受けていることが推定され、受診項目の拡大を図る必要がある。

表27 義務的に健康診断を受診しなければならないモスクワ市民の受診率

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
合計	94.2	95.8	96.4	97.4	97.3
企業労働者	93.9	97.2	97.2	96.4	97.2
農業省に所属する機関の労働者	96.6	91.3	98.6	93.3	96.6
その他の市民	94.3	95.1	96.1	97.8	97.4
職業技術学校、専門学校、大学の学生(18歳以上)	93.2	93.7	95.9	93.8	93.6

出所) モスクワ政府モスクワ市ロシア連邦消費者権利保護・福祉分野監督庁健康保健課  
「モスクワ住民の健康状況について、2009年」

**表28 健康診断受診科目（その1）**

健康診断の時に特に受診している項目を分かる範囲でお答えください。（MA）

		回答数	%
全体		182	100.0
1	既往歴及び業務歴の調査、喫煙歴、服薬歴などの調査	64	35.2
2	自覚症状及び他覚症状の有無の検査	57	31.3
3	身長、体重、視力及び聴力、腹囲の検査	103	56.6
4	胸部エックス線検査及び喀痰検査	104	57.1
5	血圧の測定	128	70.3
6	貧血検査（赤血球数・血色素量）	66	36.3
7	肝機能検査（GOT（AST）・GPT（ALT）・ $\gamma$ -GTP）	35	19.2
8	血中脂質検査（総コレステロール（旧）→LDLコレステロール（新）・HDLコレステロール・トリグリセリド（中性脂肪））	52	28.6
9	血糖値	110	60.4
10	心電図検査（安静時心電図検査）	74	40.7
11	尿検査（尿中の糖及び蛋白の有無の検査）	126	69.2
12	その他	1	0.5

**出所）モスクワ市及び近郊在住者への独自インターネット調査**

**表29 健康診断受診科目（その2）**

健康診断の時に特に受診している項目を分かる範囲でお答えください。（MA）

		回答数	%
全体		182	100.0
1	既往歴及び業務歴の調査、喫煙歴、服薬歴などの調査	64	35.2
2	自覚症状及び他覚症状の有無の検査	57	31.3
3	身長、体重、視力及び聴力、腹囲の検査	103	56.6
4	胸部エックス線検査及び喀痰検査	104	57.1
5	血圧の測定	128	70.3
6	貧血検査（赤血球数・血色素量）	66	36.3
7	肝機能検査（GOT（AST）・GPT（ALT）・ $\gamma$ -GTP）	35	19.2
8	血中脂質検査（総コレステロール（旧）→LDLコレステロール（新）・HDLコレステロール・トリグリセリド（中性脂肪））	52	28.6
9	血糖値	110	60.4
10	心電図検査（安静時心電図検査）	74	40.7
11	尿検査（尿中の糖及び蛋白の有無の検査）	126	69.2
12	その他	1	0.5

**出所）モスクワ日本センター、日本語講座受講生への独自アンケート調査**

**表30 ロシアにおける健康診断に対するロシア人医師の認識度調査**

義務か任意かにかかわらずロシアでの健康診断は、実際の受診者の健康管理に有効に機能していると思いますか。

		回答数	%
全体		100	100.0
1	大いに思う	13	13.0
2	思う	54	54.0
3	思わない	28	28.0
4	全く思わない	2	2.0
5	その他	3	3.0

「思わない」と答えた方のその理由を教えてください。

(複数回答有)

		回答数	%
全体		30	100.0
1	診断や検査の技術が十分ではない	16	53.3
2	診断設備が旧式又は十分ではない	12	40.0
3	国民の健康管理意識が低い	25	83.3
4	その他	5	16.7

**出所) モスクワ市及び近郊在住する医師への独自インターネット調査**

## 第4章 ロシア(モスクワ市等)における事業展開に向けた検討

### 4-1. 本事業展開可能性に関する検証

#### 1)病院(診療所)の開設

医療機関への外国資本の参加は自由であることから、日本の資本による病院、診療所の開設は、医療ライセンスを取得する要件を満たせば可能である。対象は、外資系医療機関であるヨーロッパアンメディカルセンターやアメリカンメディカルセンターと同様に富裕層や高額な任意保険加入者、旅行保険加入者とし、高度な医療サービスを行うことから始めるのが現実的である。ただし、管理者としての医師をはじめ、専門医や優秀な医師をどのように確保するかが大きな課題となる。

また、日本とロシアの患者に対する対応は大きく異なることから、日本式の患者中心の医療を推進するためには、ロシア人医師及び看護師に対する指導は十分行う必要がある。医療機関の運営に関しては、給料の高額な日本人医師を数多く常駐させることは、困難であると思料されることから、日本の医療の推進方法やチーム医療の思想について事前に日本で研修を行うことも必要である。

さらに、ロシアで対応できない症例の患者は、日本で直ちに対応できるようにするシステムも必要である。これらによって、日本の高度な医療をロシア国民に示し、日本とロシアの医療交流を盛んにして、双方の医療の発展につなげていくことが肝要である。

一方、現地医療機関との共同開設やすでに開設しているクリニックに資本参加をすることは、設備投資、人員の確保、各種の手続きからしても単独で行うより有利である。この際には、現地資本の信頼性を確認するとともに、運営方針等を十分協議し、お互いの理解を深めながら進めていく必要がある。

なお、JETRO 情報では、「外資に対する奨励業種は特にない。ただし、特定企業に対して、外国政府、国際機関、外国銀行等からの融資にロシア政府保証が付与され、これらが国家予算に組み込まれることがある」とされる。

しかしながら、JETRO ホームページに書いてある詳細を見ると、本事業に適応するためにはかなり大規模プロジェクトである必要があり、本プロジェクトが適応することは困難と思われる。(参考：JETRO ホームページ:[http://www.jetro.go.jp/world/Russia\\_cis/ru/invest\\_03](http://www.jetro.go.jp/world/Russia_cis/ru/invest_03))

#### 2)日本の高度医療のセミナーの実施及び有料セミナーの実施

今回数回のセミナーを実施したが、ロシアの医師の積極的な参加と意欲が感じられた。

より多くのセミナーを通じてお互いの交流を盛んにし、様々な症例の対応を検討することにより、双方の医学の進歩があると考えられる。

しかしながら、日本から医師が行って有料でセミナーを行うことは、アンケートの結果をみてもそれほど多くの受講料を見込めず、また、日本からの旅行経費を考えればただちには実現困難である。

当面は、医療の交流を通じながら、必要に応じて日本での患者の治療につなげていくことが重要である。

### 3)画像遠隔診断の実施

内視鏡の画像遠隔診断については、技術的には十分対応可能であるが、経費的にはその利用見込みにより左右されることになる。しかし実際には、ロシアでの内視鏡の利用状況、医師の技術から多くの利用は見込まれず、日本とロシアの医療交流の一つの手段としての側面が大きいと思われる。

今後ロシア等の多くの国々の病院とシステムをつなげる、日本側でも多くの専門医とのネットワーク化を図るなどの対応を行う必要がある。その間、日本での治療に結びつくことがあればよい。

### 4)健康診断の普及

健康診断については、被雇用者の一部に特定項目の定期的な診断が義務つけられている状況である。エアロビクスに通う女性が増え、健康食品の販売が増加しているなど、若い人を中心にロシア国民の健康に対する意識が所得の向上に伴い、増え始めていることから、全世代に健康予防の意識を持つよう啓発に努めていく必要がある。そのためには、被雇用者のみならず全国民の定期健康診断の義務化や受診項目の拡大など政府の政策の一層の促進や企業の職員に対する健康診断の実施、保険会社の任意医療保険での定期健康診断サービスの導入などを図っていく必要がある。健康診断については、まずロシア国民の健康に対する意識の改善が必要である。

予防健診の有効性を認識してもらうことが重要である。若い人は、健康に関する意識を持ち始めているようであり、今後全世代に健康予防の意識を持つよう努めていく必要がある。

## 4-2. 事業展開のための課題

### 1)法の改正等

現在は、一定の試験等を経て、日本人医師がロシアにおいて医師として活動できることになっているが、ロシア人医師に比して日本人医師は決して劣っていないと思量されることから、政治的な交渉等を通じて、日本人医師免許をロシアでも通用にすることが肝要である。

また、ロシア人の平均寿命の伸長のため、成人の健康診断の実質的な毎年受診の義務化と周知を図る必要がある。

### 2)ロシア人医師の確保と研修体制

ロシアで医療機関を開設するためには、優秀なロシア人医師を確保する必要がある。

そのためには、セミナーの開催等により、様々な大学や医療機関との交流を行うことも役に立つであろう。今回は、内視鏡を中心としたプログラムであったが、幅広い交流を進めていく必要がある。

また、日本式の医療を提供するためには、現地採用したロシア人医師や看護師を日本において研修させ、よりきめ細かく日本スタイルの医療について学んでもらい、それをロシアで実践してもらうことが必要である。

受け入れる側として、言葉や生活習慣に応じた対応をきちんとする必要がある。

### 3)任意保険会社等との連携

病院、診療所を運営していくためには、外国資本としてすべて自費診療としていくことも可能であるが、旅行保険との連携も視野に入れる必要になる。また、ロシアにおいて適切な健康診断を推進していくためには、企業又は保険会社の健康診断を受託して多くのロシア人が健康診断を受けに来る環境を作ることも肝要であり、保険会社の健康保険の商品化を進めることも必要である。さらに、任意保険による医療も受け入れていくことも安定した運営を行うためには、検討を要する。

## 4-3. まとめ

ロシアと日本の歴史を振り返ると、日露戦争、第二次世界大戦における苦い思い出、また、戦後もシベリア抑留、冷戦時の暗いイメージを払しょくできず、ソ連体制がロシアに移行した後も北方領土問題など未解決な問題が山積している。そのためか一般に日本人のロシアに対する国民感情は良いとはいえない。実際日露間の経済交流は長い間氷に閉ざされていた感を免れず、やっと活性化したのは、7、8年前からである。

しかし、ロシアは文化的にも経済的にも大切な隣国であり、相互に支えあわなければならない、最も親しい間柄であるべきであると双方とも認識し始めている。

一方、ロシア人の対日感情は決して悪くなく、純朴でおおらかな国民性は味わい深く、今回のプロジェクトを進める中で多くのロシア人と信頼関係を築くことができたことは最大の収穫といえる。なかでも、Japan Medical Center（以下「ジャパンメディカルセンター」と表記）を設立しようとしているパテロクリニックのGeorge Akhvediani（ゲオルギ・アクフレディニ）院長の人柄に触れることができたことは、本プロジェクトの将来を成功に導く鍵となるものである。

本プロジェクトの動機はロシアと日本の間の文化及び経済交流の新たな接点として医療を位置づけ、日本医療がロシア医療の発展にどのくらい寄与できるかを調査研究し、医療そのものを医療産業として日本医療の国際化がロシアにおいて果たせるか否かを検討課題としたものである。

初年度はまずロシアにおける医療制度と診療実態、国民の健康政策に対する認識と要望を調査し、日本の先端医療をロシア人医師に対して具体的に提示し、直接専門家同士で意見交換を行い、併せてモスクワ市民に問いかけて日本医療がモスクワ市民の健康増進に寄与できるかどうかを検討することを目的としてスタートした。

その結果は、さきに述べたとおりであるが、日本人医師の免許がロシアで一時的にも通用しないことは、大きな障壁となっている。世界一である日本の内視鏡技術や最先端医療をロシアに現段階で直接普及させることができないことは、遺憾なことである。このため、当面、次のような展開を図っていくべきと考える。

### 1)今後の展開について

- ① ロシア国民はロシアの医療水準の現状に満足しているとは言えず、また、日本の医療に対する関心も高まっていることから、将来的には日本式の医療機関開設の検討が必要である。この際、単独開設、現地資本と共同開設、またはすでに開設されている医療機関への資本参加であるか、病院、クリニックの別、診療科の選定、優秀な人材の確保策、現地資

本との役割分担等、ロシアの各種事情を踏まえ、総合的に進めていくことが必要である。また、開設に当たっては、医師、看護師等の日本での研修が必須であり、特に外国人医師免許に関わるロシア側の法改正等が行われない現状で、医療機関としてのジャパンメディカルセンターが開設を行う場合には、そこに雇用されるロシア免許の医療者は日本における研修を前提とするべきである。

- ② ロシアとの医療交流については、ロシア側の積極的な要請もあり、今年度は内視鏡を中心として実施してきたが、今後は日本で展開している様々な高度医療分野で推進していくことが重要である。日本の高度医療を普及することは、両国の医療交流が深まることはもちろん、日本製医療機器の敷衍につながることは論を待たない。
- ③ ジャパンメディカルセンターについては、他の外資系医療機関は多くの診療科を有し、診断治療を行っているが、パテロクリニックは診断を中心とした外来クリニックであること、建物の床面積にも限度があり多くの診療科を設けることができないことから、治療を行う診療科は限定的にならざるを得ず、むしろここを当面検診センターとして活用していくことも考慮する必要がある。PET-CTなどを導入し、きめ細やかに健康状態をチェックすることができれば大きな特徴になるものと考えられる。これは後に述べる遠隔画像診断システムにより効果的に日本から診断サポートを可能とし、また日本への患者紹介の道筋となる。

また、パテロクリニックの院長は、教育センターとしての位置づけを希望しており、今後とも日本の高度医療の普及の起点として活用することが可能であることから、幅広く研修を行い、日露の医療の相互理解を進めるとともに、総合的なクリニック、病院の開設に向けてのロシア人医師の人材確保にも役立つであろう。

- ④ 遠隔画像診断（MDIS）については、日本側の受け皿を今回ご協力いただいた関係病院のほか将来的には多くの医療機関に拡大することは十分可能である。またロシア側の受け皿の拡大は次年度における双方の努力により実現できるものと考えられる。MDISの敷設は今回の画期的成果の一つであり、これにより次年度から日露双方の診断協力により、患者は日本の医療機関に移動して治療を受けることが可能となる。すなわちホスピタルシェアが成立するのである。
- ⑤ 健康診断については、ロシアの平均寿命の伸長のため、普及しなければならないが、普及しない原因としては、医療技術の低さや国民の健康に対する認識の低さ等が考えられる。ロシアにおいても、予防検診の必要性を認識している医師は多いと思われるので、これらの医師も含め専門的な調査を行い、政府にアピールしていく必要がある。併せて、保険会社や企業に対する啓発も行うことが重要である。
- ⑥ 医師免許についても、日露の医療交流等を通じて、ロシア医療の向上に役立つものとしてのロシア医療関係者の協力を得るなどして政府に呼びかけていく必要がある。

## 2)展開に当たっての基本姿勢

本事業の展開に当たっては、単に日本の医療機器のロシアへの輸出促進という観点ではなく、ロシア医療のプライドを尊重しつつ、ロシア国民の医療に対する潜在的不信感を払拭するような現地人材の育成に協力することが基本であろう。その中で日本医療の高度先進性にロシア国民が大きな関心を寄せるようになれば本事業成功への導線となる。その上でジャパンメディカルセンターが開設定着することにより内視鏡、放射線診断および治療機器、検査システム等

の導入が行われ、最終的に高度な手術技術、診断システムがロシアに浸透していくことになる。このような過程を経て初めて医療そのものを産業と考える「医療産業」の海外進出が可能になると考える。

勿論「医は仁術」「すべては患者さんのために」という精神こそが日本医療の根本であり、その医療システムは世界に誇れるものであることを世界に認識させていくことが最終目標である。

(了)

## 参考資料

1. 在モスクワ市及び近郊在住の市民を対象とした医療に関する意識調査結果（株式会社クロス・マーケティング委託）
2. 在モスクワ市及び近郊在住の企業経営者又は福利厚生部門担当者を対象とした医療に関する意識調査結果（株式会社クロス・マーケティング委託）
3. 在モスクワ市及び近郊在住の医師を対象とした医療に関する意識調査結果（株式会社クロス・マーケティング委託）
4. 在モスクワ及び近郊在住の市民対象を対象とした医療に関する意識調査結果（在モスクワの日本センター委託）
5. 日本人医師によるセミナーに参加したロシア人医師のアンケート調査結果（自主実施）

## 1. 在モスクワ市及び近郊在住の市民を対象とした医療に関する意識調査結果

SC1 あなたの性別をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		200	100.0
1	男	115	57.5
2	女	85	42.5

SC2 あなたの年齢をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		200	100.0
1	10代	16	8.0
2	20代	82	41.0
3	30代	67	33.5
4	40代	26	13.0
5	50代	8	4.0
6	60代	1	0.5
7	70歳以上	0	0.0

SC3 あなたの居住地域をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		200	100.0
1	モスクワ市	151	75.5
2	モスクワ州	49	24.5
3	サンクトペテルブルグ市	0	0.0
4	ノヴォシビルスク州	0	0.0
5	その他の地域	0	0.0

SC4 あなたの職業をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		200	100.0
1	公務員	29	14.5
2	会社員	94	47.0
3	会社役員	18	9.0
4	自営業	24	12.0
5	学生	19	9.5
6	無職	8	4.0
7	その他	8	4.0

SC5 あなたの年収をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		200	100.0
1	120,000ルーブル未満	0	0.0
2	120,000ルーブル以上	200	100.0
3	答えたくない	0	0.0

SC6 あなたが一番最近で、病院に行ったのはいつ頃ですか（S A）

		回答数	%
全体		200	100.0
1	一週間以内	58	29.0
2	一ヵ月以内	57	28.5
3	三ヶ月以内	55	27.5
4	半年以内	30	15.0
5	一年以内	0	0.0
6	それより前	0	0.0

Q1 あなたの持病・既往症等をお知らせください。（MA）

		回答数	%
全体		200	100.0
1	感染症・寄生虫症	41	20.5
2	新生物	10	5.0
3	血液・造血器疾患、検疫機構疾患	7	3.5
4	内分泌、栄養・代謝疾患	39	19.5
5	神経系疾患	43	21.5
6	眼系疾患	28	14.0
7	耳鼻系疾患	32	16.0
8	呼吸器系疾患	70	35.0
9	循環器系疾患	17	8.5
10	皮膚・皮下組織系疾患	29	14.5
11	筋骨格系疾患	21	10.5
12	消化器系疾患	64	32.0
13	泌尿器系疾患	30	15.0
14	周産期に係る病態	8	4.0
15	先天性奇形・変形・染色体異常	4	2.0
16	外傷・薬物中毒	24	12.0
17	その他	20	10.0

Q2 あなたはどのような頻度で医者にかかりますか。（S A）

		回答数	%
全体		200	100.0
1	1月に1回	52	26.0
2	年に数回	110	55.0
3	年に1回	35	17.5
4	その他	3	1.5

Q3 あなたは健康診断を受診していますか。（S A）

		回答数	%
全体		200	100.0
1	定期的を受診している	87	43.5
2	不定期だが受診している	95	47.5
3	全く受診していない	18	9.0
4	その他	0	0.0

Q4 健康診断を受診した医療機関の選定理由はなんですか？（S A）

		回答数	%
全体		182	100.0
1	学校や勤務先の指定医療機関だから	69	37.9
2	医療技術を信頼しているから	62	34.1
3	費用が安いから	5	2.7
4	地理的に便利だから	45	24.7
5	その他	1	0.5

Q5 健康診断を受診している方にお聞きします。誰がその費用負担をしていますか。（S A）

		回答数	%
全体		182	100.0
1	全額自己負担又は家族負担	85	46.7
2	全額勤務先負担	49	26.9
3	全額国や地方政府負担	25	13.7
4	一部勤務先負担	12	6.6
5	一部国や地方政府負担	10	5.5
6	その他	1	0.5

Q6 健康診断の時に受診している項目を分かる範囲でお答えください。（M A）

		回答数	%
全体		182	100.0
1	既往歴及び業務歴の調査、喫煙歴、服薬歴などの調査	64	35.2
2	自覚症状及び他覚症状の有無の検査	57	31.3
3	身長、体重、視力及び聴力、腹囲の検査	103	56.6
4	胸部エックス線検査及び喀痰検査	104	57.1
5	血圧の測定	128	70.3
6	貧血検査（赤血球数・血色素量）	66	36.3
7	肝機能検査（G O T（A S T）・G P T（A L T）・ $\gamma$ -G T P）	35	19.2
8	血中脂質検査（総コレステロール（旧）→L D Lコレステロール（新）・H D Lコレステロール・トリグリセリド（中性脂肪））	52	28.6
9	血糖値	110	60.4
10	心電図検査（安静時心電図検査）	74	40.7
11	尿検査（尿中の糖及び蛋白の有無の検査）	126	69.2
12	その他	1	0.5

Q7 健康診断の費用（S A）

		回答数	%
全体		182	100.0
1	無料	62	34.1
2	3 0 0 ルーブル未満	13	7.1
3	3 0 0 ~ 1, 0 0 0 ルーブル未満	25	13.7
4	1, 0 0 0 ~ 5, 0 0 0 ルーブル未満	50	27.5
5	5, 0 0 0 ~ 1 0, 0 0 0 ルーブル未満	23	12.6
6	1 0, 0 0 0 ルーブル以上	9	4.9

Q8 あなたが現在受診している健康診断に満足していますか。(S A)

		回答数	%
全体		182	100.0
1	満足している	62	34.1
2	ほぼ満足している	61	33.5
3	あまり満足していない	48	26.4
4	全く満足していない	7	3.8
5	分からない	4	2.2

Q9 現在のロシアの医療について改善が望ましいと思う点がありますか。(M A)

		回答数	%
全体		200	100.0
1	特に改善点はない	10	5.0
2	医療スタッフの診断・治療技術	128	64.0
3	医療設備・機器	139	69.5
4	診断・治療費用の透明化	85	42.5
5	医療スタッフのホスピタリティ	89	44.5
6	その他	1	0.5

Q10 日本は世界的にも医療水準の高い国のひとつと自負していますが、日本式医療技術・サービスを提供する病院がロシアに開設されたら受診してみたいですか。(S A)

		回答数	%
全体		200	100.0
1	大いに興味がある	82	41.0
2	興味がある	85	42.5
3	あまり興味がない	16	8.0
4	興味がない	8	4.0
5	分からない	9	4.5

Q11 健康診断は日本では国の法律で年1回の受診が義務づけられていますが、ロシアで開設される日本式の病院で同様の健康診断を受診したいと思いますか。(S A)

		回答数	%
全体		200	100.0
1	大いに思う	58	29.0
2	思う	119	59.5
3	あまり思わない	12	6.0
4	全く思わない	5	2.5
5	分からない	6	3.0

Q12 あなたが持病で困っていて、その持病がロシア国内では治療が難しいが、日本では治療可能な場合、日本に来て治療を受けたいと思いますか(S A)

		回答数	%
全体		200	100.0
1	大いに思う	72	36.0
2	思う	95	47.5
3	あまり思わない	15	7.5
4	全く思わない	9	4.5
5	分からない	9	4.5

Q13 日本に来て治療を受けたいと思わないと答えた方にお伺いします。それは何故ですか。(S A)

		回答数	%
全体		24	100.0
1	経済的理由から難しい	8	33.3
2	日本のことを良く知らない	3	12.5
3	ロシアを離れたくない	8	33.3
4	言葉が通じないことの不安がある	4	16.7
5	その他	1	4.2

Q14 あなたの年収(税引き前)をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		200	100.0
1	50万ルーブル以下	78	39.0
2	50万～100万ルーブル	55	27.5
3	100万～300万ルーブル	29	14.5
4	300万～500万ルーブル	12	6.0
5	500万～1,000万ルーブル	10	5.0
6	1,000万ルーブル以上	7	3.5
7	答えたくない	9	4.5

Q15 あなたの資産額お知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		200	100.0
1	50万ルーブル以下	68	34.0
2	50万～100万ルーブル	35	17.5
3	100万～300万ルーブル	22	11.0
4	300万～500万ルーブル	17	8.5
5	500万～1,000万ルーブル	6	3.0
6	1,000万ルーブル以上	11	5.5
7	答えたくない	41	20.5

## 2. 企業経営者又は福利厚生部門担当者を対象とした医療に関する意識調査結果

SC1 あなたの性別をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	男	37	37.0
2	女	63	63.0

SC2 あなたの年齢をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	10代	0	0.0
2	20代	34	34.0
3	30代	42	42.0
4	40代	17	17.0
5	50代	7	7.0
6	60代	0	0.0
7	70歳以上	0	0.0

SC3 あなたの居住地をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	モスクワ市	84	84.0
2	モスクワ州	16	16.0
3	サンクトペテルブルグ市	0	0.0
4	ノヴォシビルスク州	0	0.0
5	その他の地域	0	0.0

SC4 あなたの職業をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	会社経営	95	95.0
2	会社勤務	2	2.0
3	公務員・教職員・非営利団体職員	3	3.0
4	農林漁業	0	0.0
5	専門職(弁護士・税理士等・医療関連)	0	0.0
6	パート・アルバイト	0	0.0
7	学生	0	0.0
8	専業主婦	0	0.0
9	無職、仕事をしていない	0	0.0
10	その他	0	0.0

SC5 あなたはお勤め先の福利厚生部門を担当していらっしゃいますか。(S A)

		回答数	%
全体		5	100.0
1	担当している	5	100.0
2	担当していない	0	0.0

Q1 あなたのお勤め先の業種をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	水産業	1	1.0
2	農林業	2	2.0
3	鉱業	1	1.0
4	建設業	4	4.0
5	製造業	9	9.0
6	電気業	0	0.0
7	ガス業	3	3.0
8	運輸業	2	2.0
9	情報通信業	5	5.0
10	商業	17	17.0
11	金融業	22	22.0
12	保険業	3	3.0
13	不動産業	5	5.0
14	サービス業	26	26.0

Q2 あなたのお勤め先の従業員数をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	10人未満	10	10.0
2	10～100人未満	41	41.0
3	100～500人未満	25	25.0
4	500～1,000人未満	11	11.0
5	1,000人以上	13	13.0

Q3 あなたのお勤め先の売上高(単年度)をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	300万ルーブル未満	6	6.0
2	300万～3,000万ルーブル未満	27	27.0
3	3,000万～3億ルーブル未満	39	39.0
4	3億ルーブル以上	28	28.0

Q4 福利厚生制度の有無をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	有	62	62.0
2	無	21	21.0
3	分からない	17	17.0

Q5 御社の福利厚生制度の特に医療面の内容はどのようなものですか。（複数回答可。国の制度との重複した制度の記入も可）（MA）

		回答数	%
全体		62	100.0
1	健康診断の無償での実施	25	40.3
2	健康診断費用の全額支給	6	9.7
3	健康診断費用の一部補助	9	14.5
4	任意医療保険への加入	38	61.3
5	傷病休暇の付与	45	72.6
6	自社内医療機関の所有	2	3.2
7	特定医療機関との提携	18	29.0
8	その他	1	1.6

Q6 健康診断を実施している企業の方にお聞きします。健康診断はどのような頻度で行っていますか。（SA）

		回答数	%
全体		39	100.0
1	2年に1回	3	7.7
2	1年に1回	21	53.8
3	半年年に1回	6	15.4
4	特に社内規定はない	6	15.4
5	その他	3	7.7

Q7\_1 特定の医療機関と提携している方にお聞きします。／提携先を決めた理由（SA）

		回答数	%
全体		18	100.0
1	経済性	2	11.1
2	地理的利便性	4	22.2
3	医療技術や設備がよい	11	61.1
4	系列企業だから	1	5.6
5	その他	0	0.0

Q7\_2 特定の医療機関と提携している方にお聞きします。／提携先の決定権者（SA）

		回答数	%
全体		18	100.0
1	経営者	8	44.4
2	福利厚生責任者	6	33.3
3	社員	3	16.7
4	労働組合	0	0.0
5	その他	1	5.6

Q8 御社で実施しているものを次の中から選んでください。(MA)

		回答数	%
全体		39	100.0
1	既往歴及び業務歴の調査、喫煙歴、服薬歴などの調査	12	30.8
2	自覚症状及び他覚症状の有無の検査	13	33.3
3	身長、体重、視力及び聴力、腹囲の検査	25	64.1
4	胸部エックス線検査及び喀痰検査	17	43.6
5	血圧の測定	30	76.9
6	貧血検査 (赤血球数・血色素量)	10	25.6
7	肝機能検査 (GOT (AST)・GPT (ALT)・γ-GTP)	7	17.9
8	血中脂質検査 (総コレステロール (旧)→LDLコレステロール (新)・HDLコレステロール・トリグリセリド (中性脂肪))	11	28.2
9	血糖値	17	43.6
10	心電図検査 (安静時心電図検査)	19	48.7
11	尿検査 (尿中の糖及び蛋白の有無の検査)	19	48.7
12	その他	5	12.8

Q9 健康診断に要する一人あたりの費用は幾らですか (SA)

		回答数	%
全体		39	100.0
1	3,000ルーブル以下	14	35.9
2	3,000～10,000ルーブル	21	53.8
3	10,000～30,000ルーブル	3	7.7
4	3万ルーブル以上	1	2.6

Q10 現在健康診断内容に企業経営上、満足していますか。(SA)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	満足している	18	18.0
2	ほぼ満足している	24	24.0
3	あまり満足していない	32	32.0
4	改善の余地あり	11	11.0
5	分からない	15	15.0

Q11 健康診断内容に企業経営上、満足していない点を教えて下さい。(MA)

		回答数	%
全体		43	100.0
1	費用面	9	20.9
2	地理的に不便	11	25.6
3	医療技術	29	67.4
4	設備が良くない	9	20.9
5	その他	3	7.0

Q12 健康診断は日本では国の法律で年1回の受診が義務づけられていますが、ロシアで開設される日本式の病院で社員に受診させてみたいと思いますか。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	大いに思う	29	29.0
2	思う	56	56.0
3	あまり思わない	6	6.0
4	分からない	7	7.0
5	その他	2	2.0

Q13 健康診断について個別に相談したいことがありますか。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	ある	40	40.0
2	ない	39	39.0
3	分からない	21	21.0

### 3. 在モスクワ市及び近郊在住の医師を対象とした医療に関する意識調査結果

SC1 あなたの性別をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	男	32	32.0
2	女	68	68.0

SC2 あなたの年齢をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	10代	0	0.0
2	20代	40	40.0
3	30代	43	43.0
4	40代	12	12.0
5	50代	3	3.0
6	60代	2	2.0
7	70歳以上	0	0.0

SC3 あなたの居住地をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	モスクワ市	98	98.0
2	モスクワ州	2	2.0
3	サンクトペテルブルグ市	0	0.0
4	ノヴォシビルスク州	0	0.0
5	その他の地域	0	0.0

SC4 あなたのお仕事は、医療系のお仕事ですか。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	はい	100	100.0
2	いいえ	0	0.0

SC5 あなたのお仕事をお知らせください。(S A)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	医師	100	100.0
2	技師	0	0.0
3	看護師	0	0.0
4	その他	0	0.0

Q1 あなたの専門分野は何ですか。(S A)

全体		回答数	%
全体		100	100.0
1	脳神経外科	0	0.0
2	整形外科	3	3.0
3	心臓血管外科	0	0.0
4	形成外科	1	1.0
5	呼吸器外科	0	0.0
6	麻酔科	2	2.0
7	耳鼻咽喉科	1	1.0
8	眼科	6	6.0
9	アレルギー科	1	1.0
10	神経内科	6	6.0
11	消化器科	5	5.0
12	循環器科	2	2.0
13	呼吸器科	0	0.0
14	気管食道科	1	1.0
15	小児科	17	17.0
16	小児外科	2	2.0
17	産婦人科	13	13.0
18	泌尿器科	2	2.0
19	肛門科	1	1.0
20	皮膚科	4	4.0
21	性病科	1	1.0
22	リハビリテーション科	0	0.0
23	歯科	9	9.0
24	歯科口腔外科	5	5.0
25	精神科	1	1.0
26	救急科	2	2.0
27	放射線科	0	0.0
28	その他	15	15.0

Q2 あなたの勤務形態は(S A)

全体		回答数	%
全体		100	100.0
1	個人開業医	5	5.0
2	国公立病院勤務	58	58.0
3	民間病院又は診療所勤務	21	21.0
4	個人開業と勤務医の兼業	8	8.0
5	その他	8	8.0

Q3 医師としての経験年数を教えて下さい。(S A)

全体		回答数	%
全体		100	100.0
1	5年以下	24	24.0
2	5～10年	39	39.0
3	10～15年	21	21.0
4	15～20年	8	8.0
5	20年以上	8	8.0

- Q4 超音波、内視鏡、CTスキャンやMRI等で撮影した画像を別の医療機関に転送して、セカンドオピニオンを聞いたり、述べたりした経験はありますか。(SA)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	ある	47	47.0
2	ない	48	48.0
3	分からない	5	5.0

- Q5 画像転送診断によるセカンドオピニオンは有効と思いますか。(SA)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	大いに有効である	11	11.0
2	有効である	68	68.0
3	あまり有効ではない	16	16.0
4	有効ではない	0	0.0
5	分からない	5	5.0

- Q6 海外、特に日本の医療機関との画像転送診断システムには関心がありますか(SA)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	大いに関心がある	14	14.0
2	関心がある	68	68.0
3	あまり関心はない	14	14.0
4	全く関心はない	4	4.0
5	その他	0	0.0

- Q7 「関心がある」と答えた方にお聞きします。画像転送診断システムをより有効なものにするための条件はどのようにお考えですか。(MA)

		回答数	%
全体		82	100.0
1	日本側の診断能力の検証	21	25.6
2	相互交流・信頼関係の醸成	53	64.6
3	正式な契約書の締結	23	28.0
4	研修会・学会等の共催	57	69.5
5	その他	1	1.2

- Q8 日本では国の制度で年1回の健康診断を実施していますが、ロシアにも同じような制度はありますか?(SA)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	ある	73	73.0
2	ない	22	22.0
3	わからない	5	5.0

Q9 義務か任意かにかかわらずロシアでの健康診断は、実際の受診者の健康管理に有効に機能していると思いますか。(SA)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	大いに思う	13	13.0
2	思う	54	54.0
3	思わない	28	28.0
4	全く思わない	2	2.0
5	その他	3	3.0

Q10 「思わない」と答えた方のその理由を教えてください。(MA)

		回答数	%
全体		30	100.0
1	診断や検査の技術が十分ではない	16	53.3
2	診断設備が旧式又は十分ではない	12	40.0
3	国民の健康管理意識が低い	25	83.3
4	その他	5	16.7

Q11 日本との医療分野における日本の経験の見聞、相互訪問、研修や学会の共催等人的技術的交流に興味はありますか。(SA)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	大いにある	27	27.0
2	ある	69	69.0
3	あまりない	2	2.0
4	ない	1	1.0
5	分からない	1	1.0

Q12 日本人医師によるセミナーがあればどのようなセミナーを希望しますか。(MA)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	特定専門分野の技術向上	83	83.0
2	日本人医師との交流	72	72.0
3	日本の医療機関・医療機器メーカーの見学	45	45.0
4	日本の保健医療事情の見学や講義受講	33	33.0
5	希望しない	1	1.0
6	その他	0	0.0

Q13 最後にあなたの年収(税引き前)は幾らですか。(SA)

		回答数	%
全体		100	100.0
1	100万ルーブル以下	68	68.0
2	100万～500万ルーブル	16	16.0
3	500万～1,000万ルーブル	0	0.0
4	1,000万ルーブル以上	1	1.0
5	答えたくない	15	15.0

#### 4. 在モスクワ及び近郊在住の市民対象を対象とした医療に関する意識調査結果

##### 一般市民対象アンケート結果

対 象：日本政府により設置されている日本センター(モスクワ)での日本語講座受講者

回答者数：79名

1 性別		回答数	%
全	体	79	100%
①男		14	18%
②女		65	82%
年齢		回答数	%
全	体	77	100%
①10代		7	9%
②20代		53	69%
③30代		14	18%
④40代		1	1%
⑤50代		0	0%
⑥60代		2	3%
⑦70歳以上		0	0%
2 職業		回答数	%
全	体	76	100%
①公務員		7	9%
②会社員		32	42%
③会社役員		0	0%
④自営業		0	0%
⑤学生		30	39%
⑥無職		1	1%
⑦その他		6	8%
3 持病・既往症等		回答数	%
全	体	79	100%
①感染症・寄生虫症		4	5%
②新生物		2	3%
③血液・造血器疾患、検疫機構疾患		5	6%
④内分泌、栄養・代謝疾患		10	13%
⑤神経系疾患		7	9%
⑥眼系疾患		21	27%
⑦耳鼻系疾患		4	5%
⑧呼吸器系疾患		8	10%
⑨循環器系疾患		3	4%
⑩皮膚・皮下組織系疾患		6	8%
⑪筋骨格系疾患		4	5%
⑫消化器系疾患		13	16%
⑬泌尿器系疾患		3	4%
⑭周産期に係る病態		1	1%
⑮先天性奇形・変形・染色体異常		0	0%
⑯外傷・薬物中毒		8	10%
⑰その他		17	22%
4 あなたはどのような頻度で医者にかかりますか		回答数	%
全	体	79	100%
①1月に1回		6	8%
②年に数回		38	48%
③年に1回		22	28%
④その他		13	16%

5 あなたは健康診断を受診していますか

	全	体		
			79	100%
①定期的を受診している			23	29%
②不定期だが受診している			36	46%
③全く受診していない			15	19%
④その他			5	6%

6 健康診断を受診した医療機関の選定理由はなんですか

	全	体		
			59	100%
①学校や勤務先の指定医療機関			51	86%
②医療技術を信頼している			11	19%
③費用が安いから			2	3%
④地理的に便利			14	24%
⑤その他			6	10%

7 健康診断を受診している方にお聞きします。誰がその費用負担をしていますか

	全	体		
			59	100%
①全額自己負担又は家族負担			12	20%
②全額勤務先負担			17	29%
③全額国や地方政府負担			27	46%
④一部勤務先負担			9	15%
⑤一部国や地方政府負担			3	5%
⑥その他			3	5%

8 健康診断の時に特に受診している項目を分かる範囲でお答えください

	全	体		
			59	100%
①既往歴及び業務歴の調査、喫煙歴、服薬歴などの調査			14	24%
②自覚症状及び他覚症状の有無の検査			13	22%
③身長、体重、視力及び聴力、腹囲の検査			29	49%
④胸部エックス線検査及び喀痰検査			25	42%
⑤血圧の測定			29	49%
⑥貧血検査			17	29%
⑦肝機能検査			4	7%
⑧血中脂質検査			11	19%
⑨血糖値			27	46%
⑩心電図検査			20	34%
⑪尿検査			35	59%
⑫その他			8	14%

9 健康診断の費用

	全	体		
			59	100%
①無料			50	85%
②300 <sup>円</sup> 未満			4	7%
③300～1,000 <sup>円</sup> 未満			6	10%
④1,000～5,000 <sup>円</sup> 未満			10	17%
⑤5,000～10,000 <sup>円</sup> 未満			1	2%
⑥10,000 <sup>円</sup> 以上			2	3%

10 あなたが現在受診している健康診断に満足していますか

	全	体		
			59	100%
①満足している			5	8%
②ほぼ満足している			20	34%
③あまり満足していない			19	32%
④全く満足していない、			12	20%
⑤分からない			3	5%

11 現在のロシアの医療について改善が望ましいと思う点がありますか（複数回答可）

全	体	79	100%
①特に改善点はない		2	3%
②医療スタッフの診断・治療技術		52	66%
③医療設備・機器		58	73%
④診断・治療費用の透明化		27	34%
⑤医療スタッフのホスピタリティ		45	57%
⑥その他		6	8%

12 日本は世界的にも医療水準の高い国のひとつと自負していますが、日本式医療技術・サービスを提供する病院がロシアに開設されたら受診してみたいですか

全	体	79	100%
①大いに興味がある		33	42%
②興味がある		30	38%
③あまり興味がない		7	9%
④興味がない		0	0%
⑤分からない		9	11%

13 健康診断は日本では国の法律で年1回の受診が義務づけられていますが、ロシアで開設される日本式の病院で同様の健康診断を受診したいと思いますか

全	体	79	100%
①大いに思う		24	30%
②思う		42	53%
③あまり思わない		8	10%
④全く思わない		2	3%
⑤分からない		3	4%

14 あなたが持病で困っていて、その持病がロシア国内では治療が難しいが、日本では治療可能な場合、日本に来て治療を受けたいと思いますか

全	体	78	100%
①大いに思う		34	44%
②思う		31	40%
③あまり思わない		1	1%
④全く思わない		2	3%
⑤分からない		10	13%

15 上記14. で「思わない」と答えた方にお伺いします。それは何故ですか

全	体	12	100%
①経済的理由から難しい		6	50%
②日本のことを良く知らない		0	0%
③ロシアを離れたくない		3	25%
④言葉が通じないことの不安がある		1	8%
⑤その他		2	17%

16 年収（税引き前）

全	体	63	100%
①50万円未満		44	70%
②50万～100万円未満		16	25%
③100万～300万円未満		2	3%
④300万～500万円未満		1	2%
⑤500万～1,000万円未満		0	0%
⑥1,000万円以上、		0	0%

17 資産額

全	体	59	100%
①50万円未満		47	80%
②50万～100万円未満		5	8%
③100万～300万円未満		3	5%
④300万～500万円未満、		1	2%
⑤500万～1,000万円未満		2	3%
⑥1,000万円以上、		1	2%

## 5. 日本人医師によるセミナーに参加したロシア人内視鏡担当医師のアンケート調査結果

セミナー参加医師アンケート結果

対 象: 内視鏡学会、国立第31病院、救急病院のセミナー参加医師

回答者数: 40名

1 本日のセミナー全体の感想	回答数	%
全 体	40	100%
①大変良かった	27	68%
②良かった	12	30%
③普通	1	3%
④良くなかった	0	0%
1-2 特にコメントがあれば 別添参照		
2 有料でも受講を希望しますか。どのようなテーマを希望されますか		
全 体	40	100%
① はい	34	85%
② いいえ	5	13%
2-2 セミナーでの希望テーマ 別添参照		
3 「はい」と答えた方は、幾らくらいなら受けてもよいと思いますか(単位:ルーブル)		
全 体	34	100%
500	7	21%
1,000	13	38%
3,000	3	9%
5,000	3	9%
2,000	3	9%
12,000	1	3%
4 これまでに有料のセミナーに参加したことはありますか。		
全 体	40	100%
① はい	17	43%
② いいえ	20	50%
5 過去に日本の医療事情について見たり、聞いたりしたことがありますか		
全 体	40	100%
①はい	29	73%
②いいえ	11	28%
6 「はい」と答えた方に伺います。それは何を媒介にしましたか(複数回答可)		
全 体	29	100%
新聞	2	7%
テレビ	3	10%
雑誌	7	24%
インターネット	17	59%
知人	8	28%
勤務先	16	55%
書籍	6	21%
広告宣伝	1	3%
その他(学会、会議、シンポジウム)	11	38%

7 本日のセミナーを受講して有益だった点について教えてください

1)日本の先端医療技術

全 体	40	100%
①役に立つ	30	75%
②役に立つかもしれない	7	18%
③役に立たない	0	0%
④分からない	1	3%

2)集団検診の必要性

全 体	40	100%
①役に立つ	27	68%
②役に立つかもしれない	10	25%
③役に立たない	1	3%
④分からない	0	0%

3)予防検診の必要性

全 体	40	100%
①役に立つ	30	75%
②役に立つかもしれない	7	18%
③役に立たない	1	3%
④分からない	0	0%

4)保険制度の必要性

全 体	40	100%
①役に立つ	17	43%
②役に立つかもしれない	15	38%
③役に立たない	0	0%
④分からない	5	13%
5)その他	0	0%

8 このセミナーに参加して、現在の仕事に役立つと思いますか

全 体	40	100%
①役に立つ	28	70%
②役に立つかもしれない	10	25%
③役に立たない	0	0%
④分からない	0	0%

9 役に立つ・役に立つかも知れないと答えた方に伺います。もっと知りたいと思いますか

全 体	38	100%
①はい	37	97%
②いいえ	1	3%
③分からない	0	0%

10 「はい」と答えた方に伺います。今後どのようなセミナーを受講希望しますか。またどのような分野のことを知りたいですか

別添参照

11 あなたはご自分や同僚、部下を日本での臨床研修に参加したい、させたいと思いますか

全 体	40	100%
① はい	38	95%
② いいえ	0	0%
③ 分からない	2	5%
④ その他	0	0%

12 ご自分の患者さんを日本に送って診断や治療を受けさせたいと思いますか

全 体	40	100%
① はい	20	50%
② いいえ	3	8%
③ 分からない	15	38%
④ その他	1	3%

## セミナー参加医師 コメント一覧

### 1) セミナーについてのコメント

- 1 すごいビデオ映像!!!  
とてもよかったのは、ビデオ、通訳。
- 2 改善の余地があるのは、暑くて狭い部屋、発表者と話すことがほとんどできなかったこと
- 3 珍しいケースに関するとても貴重な情報。
- 4 粘膜下層剥離術の短いビデオがあればよかったと思う。

### 2) セミナーでの希望テーマ

- 1 ERCP、EUS
- 2 腺嚢胞性過形成のスクリーニング・プログラム、治療法
- 3 内視鏡検査の全分野の方法論的研究
- 4 気管支鏡、十二指腸鏡、ERCP、胆道鏡、ポリソムノグラフィ
- 5 腎管及び膵臓の内視鏡手術
- 6 内視鏡検査、胃腸出血、内視鏡外科手術
- 7 GIST、カルチノイド、バレット食道
- 8 気管支学
- 9 EUS、初期の食道癌、胃癌、大腸癌
- 10 内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術、GIST
- 11 胃腸及び腹腔諸器官の内視鏡検査全般
- 12 エンドソノグラフィー、粘膜下層剥離術、粘膜切除術
- 13 ERCP
- 14 消化器学における内視鏡検査
- 15 ERCP、内視鏡止血術
- 16 ERCP、早期傷処置時の粘膜下層剥離術
- 17 粘膜下層剥離術
- 18 ERCP、EUS

以上